

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

目 次

資料1	「ニッポン一億活躍プラン(厚生労働省)」(2016(平成28)年閣議決定)
資料2	要望書
資料3	本学及び近隣看護系大学院の初年度学費
資料4	学生確保に見通し調査 報告書
資料5	看護学研究科の入学志願動向
資料6	看護師総数の推移
資料7	千葉県内における看護職員数の推移(実数)
資料8	千葉県内の私立・看護系大学院の学生確保の状況
資料9	本学の看護学部看護学科の募集状況
資料10	本学の大学院修士課程の募集状況
資料11	看護師養成大学卒業者のうち、進学者数の推移
資料12	「千葉県保健医療計画【概要版】(千葉県)」(2018(平成30)年7月発行)
資料13	人材需要アンケート調査 報告書

ニッポン一億総活躍プラン

(平成28年6月2日閣議決定・労働政策関係部分の概要－「希望出生率1.8」「介護離職ゼロ」「戦後最大の名目GDP600兆円」－)

「希望出生率1.8」に向けた取組の方向

- 子育ての環境整備
 - ・保育人材確保のための総合的な対策等
(例:保育士としての技能・経験を積んだ職員の処遇改善、ICT等を活用した生産性向上による労働負担軽減、保育士の勤務環境の改善等)
- 女性の活躍
 - ・子育て等で一度退職した正社員が復職できるよう、企業への働きかけ
 - ・マザーズハローワーク事業の拠点数の拡充、機能強化
 - ・女性活躍推進法に基づく、女性活躍のための行動計画の策定・情報公表の推進
 - ・多様な正社員、テレワークの普及など、女性が働きやすい環境整備
 - ・セクハラ・マタハラの防止に向けた取組等の推進
- 社会生活を円滑に営む上での困難を有する子供・若者等の活躍支援
 - ・就労などについての専門機関が連携しての伴走型の支援
 - ・ハローワーク、地域若者サポートステーション、自治体等の関係機関が連携した若者無業者等に対する就労・自立に向けた支援
 - ・性的指向、性自認に関する正しい理解促進、社会全体が多様性を受け入れる環境づくり

「介護離職ゼロ」に向けた取組の方向

- 介護の環境整備
 - ・介護人材の処遇改善(例:キャリアアップの仕組みの構築等)
 - ・改正介護休業制度の着実な実施、介護休業の取得促進に関する周知・啓発の強化等、仕事と介護の両立が可能な働き方の普及促進
 - ・真に必要な分野に着目しつつ、外国人材受入の在り方についての総合的かつ具体的な検討の推進
- 障害者、難病患者、がん患者等の活躍支援
 - ・就職支援及び職場定着支援、治療と職業生活の両立支援

「戦後最大の名目GDP600兆円」に向けた取組の方向

- サービス産業の生産性向上
 - ・トラック、旅館、卸・小売業等7分野等の生産性向上
- 中堅・中小企業・小規模事業者の革新
 - ・下請事業者の取引条件の改善
- 観光立国の実現
 - ・労使一体での年次有給休暇の取得向上や休暇取得分散化等の休暇改革の推進
- 地方創生
 - ・地域の実情に応じた働き方改革
 - ・若い世代の就労・結婚・子育ての希望実現
- 消費・投資喚起策
 - ・賃金の継続的な引上げ
 - ・下請等中小企業の取引条件の改善等を通じた賃金・可処分所得の引上げ

ニッポン一億総活躍プラン（厚生労働省関係部分）

参考

成長の果実の分配

経済成長の隘路である労働供給減、将来に対する不安の解消へ総合的な対策を推進

これにより、国民一人ひとりが家庭で、職場で、地域で、あらゆる場所で、誰もが活躍できる社会を実現。

これまでの「三本の矢」の経済政策を一層強化し、民需主導の経済の好循環を確立。
(潜在成長率の向上)

成長の果実による
子育て支援・社会保障の基盤強化

横断的課題 生産性向上・働き方改革 (同一労働同一賃金の実現など非正規雇用の待遇改善、長時間労働の是正、高齢者の雇用促進)

新・第一の矢
希望を生み出す強い経済

賃上げ
労働分配率
向上

投資拡大

イノベーション
向上

GDP600兆円の実現

<職場・家庭>

<結婚・子育ての希望の実現>

<介護と仕事の両立>
<生涯現役社会の構築>

新・第二の矢
夢をつむぐ子育て支援

・保育の受け皿の更なる拡大・保育士等の
処遇改善・社会的養護の充実

新・第三の矢
安心につながる社会保障

・在宅・施設サービスの整備加速化
・介護職員の処遇改善・職場環境改善、家族支援
・予防・健康づくり

・安心・将来の見通しが確かになることによる消費の底上げ、投資の拡大
・多様な個人の能力の発揮による労働参加率向上やイノベーションの創出

<地域> (暮らしと生きがいとともに創る「地域共生社会」への転換)

企業や働く人が、
寄附やボランティア
等で地域に参画

住民相互の支え合い
による、生活支援な
どの提供

高齢者・障害者な
どの多様な活躍の
場の提供

希望出生率1.8の実現

介護離職ゼロ・
生涯現役社会の実現

ロードマップの下、それぞれの施策について総合的・一体的に取り組む

「地域共生社会」の実現に向けて（当面の改革工程）【概要】

平成29年2月7日 厚生労働省「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部決定

「地域共生社会」とは

◆制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

改革の背景と方向性

公的支援の『縦割り』から『丸ごと』への転換

- 個人や世帯の抱える複合的課題などへの包括的な支援
- 人口減少に対応する、分野をまたがる総合的サービス提供の支援

『我が事』・『丸ごと』の地域づくりを育む仕組みへの転換

- 住民の主体的な支え合いを育み、暮らしに安心感と生きがいを生み出す
- 地域の資源を活かし、暮らしと地域社会に豊かさを生み出す

改革の骨格

地域課題の解決力の強化

- 住民相互の支え合い機能を強化、公的支援と協働して、地域課題の解決を試みる体制を整備【29年制度改革】
- 複合課題に対応する包括的相談支援体制の構築【29年制度改革】
- 地域福祉計画の充実【29年制度改革】

地域を基盤とする包括的支援の強化

- 地域包括ケアの理念の普遍化：高齢者だけでなく、生活上の困難を抱える方への包括的支援体制の構築
- 共生型サービスの創設【29年制度改革・30年報酬改定】
- 市町村の地域保健の推進機能の強化、保健福祉横断的な包括的支援のあり方の検討

「地域共生社会」の実現

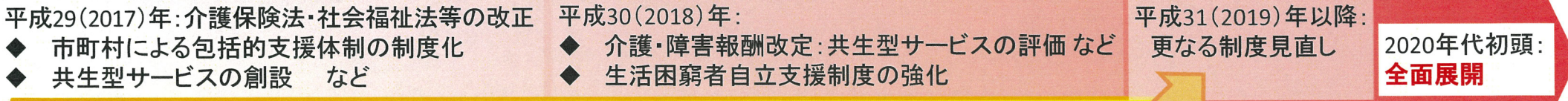
- 多様な担い手の育成・参画、民間資金活用の推進、多様な就労・社会参加の場の整備
- 社会保障の枠を超え、地域資源（耕作放棄地、環境保全など）と丸ごとつながることで地域に「循環」を生み出す、先進的取組を支援

- 対人支援を行う専門資格に共通の基礎課程創設の検討
- 福祉系国家資格を持つ場合の保育士養成課程・試験科目の一部免除の検討

地域丸ごとのつながりの強化

専門人材の機能強化・最大活用

実現に向けた工程



【検討課題】

- ①地域課題の解決力強化のための体制の全国的な整備のための支援方策(制度のあり方を含む)
- ②保健福祉行政横断的な包括的支援のあり方
- ③共通基礎課程の創設 等

市川 第 20221121-0163 号

令和 4 年 11 月 30 日

和洋女子大学

学長 岸田 宏司 様

市川市長 田中 甲



「和洋女子大学大学院」の設置について（要望）

市川市は、東京都に隣接しているという良好な立地や交通の利便性によって現在、約 50 万人の人口となっていますが、都心に進学・就職する際の居住地として若い世代に選ばれている一方で、20 代後半から 40 代前半にわたる、いわゆる子育て世代が多く転出しています。

本市が持続可能なまちであり続けるために、「市川市なら安心して子育てができる」と思っただけのような環境やシステムをつくらなければなりません。そこで、現在、子育て世代の定住促進を図り小さな子どもから高齢者まで、誰しものが健やかに暮らし、お互いを支え合う、健康寿命日本一のまちを目指し様々な施策に総合的・多面的に取り組んでいます。

また、新型コロナウイルス感染症も相まって健康の重要性が高まっているところです。

和洋女子大学は、平成 30 年度から看護学部を設置し、地域医療や福祉に多大なるご尽力をいただいておりますが、この度、貴学が看護大学院の設置を計画されていることをお知らせいただきました。

本市では、福祉部や保健部、こども政策部において看護師資格を持つ職員が活躍しており、将来を見据えますとより高度かつ専門性が求められます。

そこで是非、貴学大学院を修了した方が、地域福祉の充実につながるものと強く期待するものであり、健康寿命日本一の施策を進めていくうえで非常に重要と考えておりますので、本市といたしましては、貴学が推進している大学院の設置を強く要望致します。

令和4年 11月 8日

和洋女子大学
学 長 岸 田 宏 司 様

国立研究開発法人
国立国際医療センター
国府台病院
病院長 青 柳 信 嘉



和洋女子大学大学院看護学研究科の設置に対する要望書

平素は、本院の看護職員採用に関し、ご支援とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

この度、貴学におかれましては、看護学科を基盤とした、豊かな人間性と高い職業倫理観を備え、併せて看護の専門知識と高度のコミュニケーション能力を持つ看護職の育成のため、看護学研究科の開設を計画しているとお聞きしております。

千葉県の看護学教育を取り巻く環境は、少子高齢化、地域住民の医療に対するニーズの多様化、在宅への医療提供の場への要望の変化により、保健・医療・福祉等に関わる医療保健専門職と協働を視野に入れた看護専門職の育成が求められているところです。

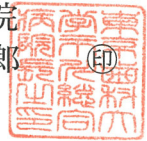
貴学の大学院看護学研究科の設置は、市川市を含む地域の看護学教育の向上と高度な看護専門職の育成のみならず、千葉県周辺地域における保健医療福祉の発展に寄与するものと期待しております。

本院といたしましても、貴学が目指す実践的能力と科学的思考力を備え臨床での課題を解決する研究力を備えた看護人材の育成は、多様化する看護臨床現場と医療に対するニーズに応えるものと期待しており、ここに計画の実現を強く要望いたします。

令和4年 11月 14日

和洋女子大学
学 長 岸 田 宏 司 様

東京歯科大学市川総合病院
病院長 西 田 次 郎



和洋女子大学大学院看護学研究科の設置に対する要望書

平素は、本院の看護職員採用に関し、ご支援とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

この度、貴学におかれましては、看護学科を基盤とした、豊かな人間性と高い職業倫理観を備え、併せて看護の専門知識と高度のコミュニケーション能力を持つ看護職の育成のため、看護学研究科の開設を計画しているとお聞きしております。

千葉県の看護学教育を取り巻く環境は、少子高齢化、地域住民の医療に対するニーズの多様化、在宅への医療提供の場への要望の変化により、保健・医療・福祉等に関わる医療保健専門職と協働を視野に入れた看護専門職の育成が求められているところです。

貴学の大学院看護学研究科の設置は、市川市を含む地域の看護学教育の向上と高度な看護専門職の育成のみならず、千葉県周辺地域における保健医療福祉の発展に寄与するものと期待しております。

本院といたしましても、貴学が目指す実践的能力と科学的思考力を備え臨床での課題を解決する研究力を備えた看護人材の育成は、多様化する看護臨床現場と医療に対するニーズに応えるものと期待しており、ここに計画の実現を強く要望いたします。

【資料3】 本学及び近隣看護系大学院の初年度学費

大学名	研究科名	専攻名	入学金	授業料	施設設備費	実験・実習費	その他	合計
和洋女子大学大学院	看護学	看護学	175,000	520,000	300,000	—	—	995,000
千葉大学大学院	看護学	看護学	282,000	642,960	—	—	—	924,960
亀田医療大学大学院	看護学	看護学	300,000	900,000	300,000	—	—	1,500,000
淑徳大学大学院	看護学	看護学	200,000	800,000	100,000	—	59,950	1,159,950
順天堂大学大学院	医療看護学	看護学	200,000	550,000	—	50,000	—	800,000
聖徳大学大学院	看護学	看護学	440,000	650,000	300,000	—	17,930	1,407,930
千葉科学大学大学院	看護学	看護学	200,000	680,000	100,000	200,000	—	1,180,000
東京医療保健大学大学院	千葉看護学	看護学	500,000	1,000,000	—	—	84,500	1,584,500
近隣看護大学院の平均 (本学除く)			303,143	746,137	200,000	125,000	54,127	1,222,477

和洋女子大学大学院
看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称）
設置構想についてのアンケート調査
【学生確保の見通し調査】
報告書

令和 5 年 1 月 16 日

株式会社高等教育総合研究所

目次

1. 調査の概要.....	2
2-1. 集計結果（学部生）.....	3
2-2. 集計結果（看護職従事者）.....	6
3. 集計結果のポイント.....	12
添付資料.....	28

1. 調査の概要

調査目的	本調査は、和洋女子大学大学院が2024（令和6）年4月に設置構想中の「看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称）」（以下、当該研究科と記す）における学生確保の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	当該研究科に進学する可能性が高い、和洋女子大学看護学部に在学する大学生400件（1学年100名定員）および看護職従事者（看護師・保健師・助産師・准看護師）2,355件を対象とした。
調査内容	<p>学部生</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 問1～3：回答者の基本情報（性別、居住地、学年） ● 問4：大学院進学希望 ● 問5：当該研究科への受験意欲 ● 問6：当該研究科の学びに対する興味・関心 ● 問7：当該研究科で修得したい知識・能力 ● 問8：大学院進学に関して重要視する事柄 ● 問9：当該研究科への入学意欲 <p>以上、全9問で主に選択肢式</p> <p>看護職従事者</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 問1～9：回答者の基本情報（性別、居住地、年齢、最終学歴、保有免許、看護職の経験年数、所属する職場、職場の所在地、職業） ● 問10：当該研究科への受験意欲 ● 問11：当該研究科の学びに対する興味・関心 ● 問12：当該研究科で修得したい知識・能力 ● 問13：大学院進学に関して重要視する事柄 ● 問14：回答者の通学可能な時間帯 ● 問15：当該研究科への入学意欲 ● 問16：当該研究科を受験しないと回答した理由 <p>以上、全16問で主に選択肢式</p>
調査時期	2022（令和4）年11月～12月
調査方法	調査対象とした和洋女子大学および病院等の医療施設にアンケート用紙、概要説明プリントを郵送し、調査対象である在学生および当該施設にて勤務する現看護職従事者への配布により回答を得た。
回収件数	有効回答数 学部生：332件／看護職従事者：657件

2-1. 集計結果（学部生）

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

問1 あなたの性別を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	女性	326	98.2%
2	答えたくない	3	0.9%
3	無回答	3	0.9%
合計		332	100.0%

問2 あなたの居住地を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	市川市	47	14.2%
2	船橋市	27	8.1%
3	習志野市	5	1.5%
4	八千代市	11	3.3%
5	鎌ヶ谷市	6	1.8%
6	浦安市	3	0.9%
7	松戸市	21	6.3%
8	柏市	15	4.5%
9	その他の千葉県内市町村	81	24.4%
10	千葉県以外	111	33.4%
11	無回答	5	1.5%
合計		332	100.0%

問3 あなた現在の学年を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	1年生	84	25.3%
2	2年生	64	19.3%
3	3年生	83	25.0%
4	4年生	100	30.1%
5	無回答	1	0.3%
合計		332	100.0%

問4 大学卒業後の大学院への進学について、どのように考えていますか。

No	選択項目	回答数	構成比
1	学部卒業と同時に進学を希望する	20	6.0%
2	将来的に進学を希望する	37	11.1%
3	進学を希望しない	203	61.1%
4	わからない	71	21.4%
5	無回答	1	0.3%
合計		332	100.0%

以降は、問4で「1. 学部卒業と同時に進学を希望する」「2. 将来的に進学を希望する」と回答した57人が対象である。

問5 あなたは2024（令和6）年4月開設予定の和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）を受験したいと思いますか。

No	選択項目	回答数	構成比
1	受験したい	22	38.6%
2	受験しない	34	59.6%
3	無回答	1	1.8%
合計		57	100.0%

以降は、問5で「1. 受験したい」と回答した22人が対象である。

問6 和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）の学びのなかで、あなたが興味をもつものを教えてください。（あてはまるもの全てにマークしてください）

No	選択項目	回答数	構成比
1	看護管理	1	4.5%
2	看護倫理	1	4.5%
3	看護教育	3	13.6%
4	成人看護	2	9.1%
5	老年看護	5	22.7%
6	精神看護	4	18.2%
7	小児看護	12	54.5%
8	母性看護	10	45.5%
9	地域看護	2	9.1%
10	産業看護	2	9.1%
11	その他	0	0.0%

※問6は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比＝回答数÷22人

問 7 あなたが和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）で修得したい知識・能力を教えてください。（あてはまるものに全てにマークをしてください）

No	選択項目	回答数	構成比
1	教育研究内容を深めるため	1	4.5%
2	高度な専門的知識・技術を身につけるため	11	50.0%
3	大学院で特に研究したい分野があるため	0	0.0%
4	専門看護師、認定看護管理者などの資格を取得するため	13	59.1%
5	学位（修士）を取得するため	4	18.2%
6	看護の研究職・教育職に就きたいため	3	13.6%
7	将来的なキャリアの向上のため	9	40.9%
8	その他	2	9.1%

※問 7 は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比＝回答数÷22 人

問 8 あなたが大学院進学に関して重要視する事柄について教えてください。（あてはまるもの全てにマークをしてください）

No	選択項目	回答数	構成比
1	平日の夜間に開講	7	31.8%
2	土曜日に開講	4	18.2%
3	日曜日・祝日に開講	3	13.6%
4	通学距離	11	50.0%
5	指導教員	3	13.6%
6	研究及び教育科目の内容	7	31.8%
7	入試科目	9	40.9%
8	長期履修制度の有無	2	9.1%
9	学費（授業料など）	11	50.0%
10	奨学金	8	36.4%
11	その他	0	0.0%

※問 8 は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比＝回答数÷22 人

問 9 あなたは和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。

No	選択項目	回答数	構成比
1	入学したい	15	68.2%
2	併願校の結果によっては入学したい	7	31.8%
合計		22	100.0%

2-2. 集計結果（看護職従事者）

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

問1 あなたの性別を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	女性	601	91.5%
2	男性	47	7.2%
3	答えたくない	6	0.9%
4	無回答	3	0.5%
合計		657	100.0%

問2 あなたの居住地を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	市川市	166	25.3%
2	船橋市	122	18.6%
3	習志野市	26	4.0%
4	八千代市	7	1.1%
5	鎌ヶ谷市	11	1.7%
6	浦安市	19	2.9%
7	松戸市	138	21.0%
8	柏市	17	2.6%
9	その他の千葉県内市町村	41	6.2%
10	千葉県以外	109	16.6%
11	無回答	1	0.2%
合計		657	100.0%

問3 あなたの年齢を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	20代	245	37.3%
2	30代	163	24.8%
3	40代	150	22.8%
4	50代以上	96	14.6%
5	無回答	3	0.5%
合計		657	100.0%

問4 あなたの最終学歴を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	看護専門学校（3年制）	304	46.3%
2	看護短期大学（3年制）	36	5.5%
3	看護系大学	193	29.4%
4	大学（看護系以外）	24	3.7%
5	その他	98	14.9%
6	無回答	2	0.3%
合計		657	100.0%

問5 あなたが保有している免許を教えてください。（あてはまるもの全てにマークをしてください）

No	選択項目	回答数	構成比
1	看護師	650	98.9%
2	保健師	119	18.1%
3	助産師	15	2.3%
4	准看護師	61	9.3%
5	その他	14	2.1%

※問5は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比＝回答数÷657人

問6 あなたの看護職としての経験年数を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	2年未満	71	10.8%
2	2～4年	84	12.8%
3	5～9年	142	21.6%
4	10～14年	105	16.0%
5	15～19年	82	12.5%
6	20年以上	171	26.0%
7	経験なし	1	0.2%
8	無回答	1	0.2%
合計		657	100.0%

問7 あなたが所属する現在の職場について教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	病院（100床未満）	1	0.2%
2	病院（100～300床未満）	141	21.5%
3	病院（300～500床未満）	375	57.1%
4	病院（500床以上）	105	16.0%
5	訪問看護ステーション	4	0.6%
6	保健所（健康福祉センター）	4	0.6%
7	企業	3	0.5%
8	その他	21	3.2%
9	無回答	3	0.5%
合計		657	100.0%

問8 あなたの職場の所在地について教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	市川市	282	42.9%
2	船橋市	109	16.6%
3	習志野市	41	6.2%
4	八千代市	2	0.3%
5	鎌ヶ谷市	0	0.0%
6	浦安市	18	2.7%
7	松戸市	151	23.0%
8	柏市	0	0.0%
9	その他の千葉県内市町村	11	1.7%
10	千葉県以外	40	6.1%
11	無回答	3	0.5%
合計		657	100.0%

問9 あなたの現在の職業を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	看護師	626	95.3%
2	保健師	14	2.1%
3	助産師	10	1.5%
4	准看護師	4	0.6%
5	その他	1	0.2%
6	無回答	2	0.3%
合計		657	100.0%

問 10 あなたは 2024（令和 6）年 4 月開設予定の和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）を受験したいと思いますか。

No	選択項目	回答数	構成比
1	開設初年度（2024（令和 6）年 4 月入学）に受験したい	22	3.3%
2	将来、状況に応じて受験したい	73	11.1%
3	受験しない	560	85.2%
4	無回答	2	0.3%
合計		657	100.0%

問 11～問 15 は、問 10 で「1. 開設初年度（2024（令和 6）年 4 月入学）に受験したい」「2. 将来、状況に応じて受験したい」と回答した 95 人が対象である。

問 11 和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）の学びのなかで、あなたが興味をもつものを教えてください。（あてはまるもの全てにマークしてください）

No	選択項目	回答数	構成比
1	看護管理	24	25.3%
2	看護倫理	23	24.2%
3	看護教育	34	35.8%
4	成人看護	37	38.9%
5	老年看護	21	22.1%
6	精神看護	10	10.5%
7	小児看護	12	12.6%
8	母性看護	7	7.4%
9	地域看護	39	41.1%
10	産業看護	15	15.8%
11	その他	5	5.3%

※問 11 は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比＝回答数÷95 人

問 12 あなたが和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）で修得したい知識・能力を教えてください。（あてはまるものに全てにマークをしてください）

No	選択項目	回答数	構成比
1	教育研究内容を深めるため	11	11.6%
2	高度な専門的知識・技術を身につけるため	49	51.6%
3	大学院で特に研究したい分野があるため	3	3.2%
4	専門看護師、認定看護管理者などの資格を取得するため	33	34.7%
5	学位（修士）を取得するため	37	38.9%
6	看護の研究職・教育職に就きたいため	23	24.2%
7	将来的なキャリアの向上のため	53	55.8%
8	その他	1	1.1%

※問 12 は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比＝回答数÷95 人

問 13 あなたが大学院進学に関して重要視する事柄について教えてください。（あてはまるもの全てにマークをしてください）

No	選択項目	回答数	構成比
1	平日の夜間に開講	39	41.1%
2	土曜日に開講	24	25.3%
3	日曜日・祝日に開講	17	17.9%
4	通学距離	54	56.8%
5	指導教員	14	14.7%
6	研究及び教育科目の内容	29	30.5%
7	入試科目	34	35.8%
8	長期履修制度の有無	21	22.1%
9	学費（授業料など）	80	84.2%
10	勤務しながら通学できるかどうか	75	78.9%
11	奨学金	22	23.2%
12	その他	3	3.2%

※問 13 は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比＝回答数÷95 人

問 14 あなたが大学院進学の際に通学可能な時間帯について教えてください。（あてはまるもの全てにマークをしてください）

No	選択項目	回答数	構成比
1	平日の昼間	15	15.8%
2	平日の夜間	46	48.4%
3	土日昼間	34	35.8%
4	土日夜間	21	22.1%
5	不定期	41	43.2%
6	その他	4	4.2%

※問 14 は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比＝回答数÷95 人

問 15 あなたは和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。

No	選択項目	回答数	構成比
1	入学したい	58	61.1%
2	併願校の結果によっては入学したい	34	35.8%
3	無回答	3	3.2%
合計		95	100.0%

問 16 は、問 10 で「3. 受験しない」と回答した 560 人が対象である。

問 16 あなたが和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）を「受験しない」と回答した理由を教えてください。（あてはまるもの全てにマークをしてください）

No	選択項目	回答数	構成比
1	進みたい領域がないため	86	15.4%
2	教育内容や特色に関心をもてないため	55	9.8%
3	大学院に進学する必要性を感じないため	207	37.0%
4	経済的理由のため	118	21.1%
5	勤務や自身の生活との両立が難しいため	262	46.8%
6	もっと実務経験を積んでから大学院に進学したいため	32	5.7%
7	その他	81	14.5%

※問 16 は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比＝回答数÷560 人

3. 集計結果のポイント

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

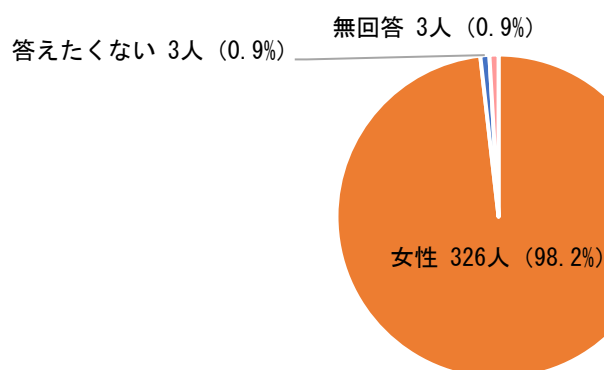
- **本学が所在する千葉県内を居住地とする者からの回答が、学部生は約 7 割、看護職従事者が約 8 割であった。**

和洋女子大学大学院が 2024（令和 6）年度に設置構想中の「看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称）」に係る「学生確保の見通し調査」において、有効回答である学部生が 332 件、現看護職従事者が 657 件の集計を行った。

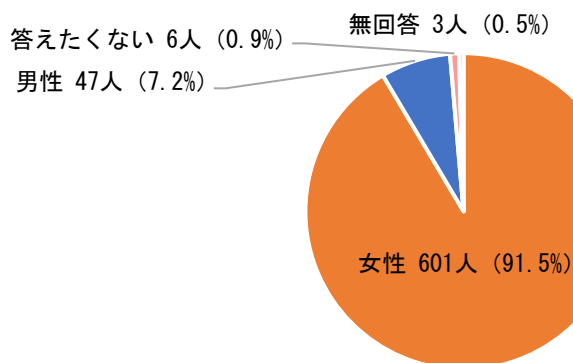
その結果、回答者の性別についての質問では、2-1 問 1（学部生）は女性が 326 人（98.2%）、2-2 問 1（看護職従事者）では、女性が 601 人（91.5%）であった。

回答者の居住地については、2-1 問 2（学部生）では回答の多い順に、千葉県以外が 111 人（33.4%）、その他の千葉県内市町村が 81 人（24.4%）、市川市が 47 人（14.2%）、船橋市が 27 人（8.1%）、松戸市が 21 人（6.3%）、柏市が 15 人（4.5%）、八千代市が 11 人（3.3%）、鎌ヶ谷市が 6 人（1.8%）、習志野市が 5 人（1.5%）、浦安市が 3 人（0.9%）であった。2-2 問 2（看護職従事者）では回答の多い順に、市川市が 166 人（25.3%）、松戸市が 138 人（21.0%）、船橋市が 122 人（18.6%）、千葉県以外が 109 人（16.6%）、その他の千葉県内市町村が 41 人（6.2%）、習志野市が 26 人（4.0%）、浦安市が 19 人（2.9%）、柏市が 17 人（2.6%）、鎌ヶ谷市が 11 人（1.7%）、八千代市が 7 人（1.1%）であった。

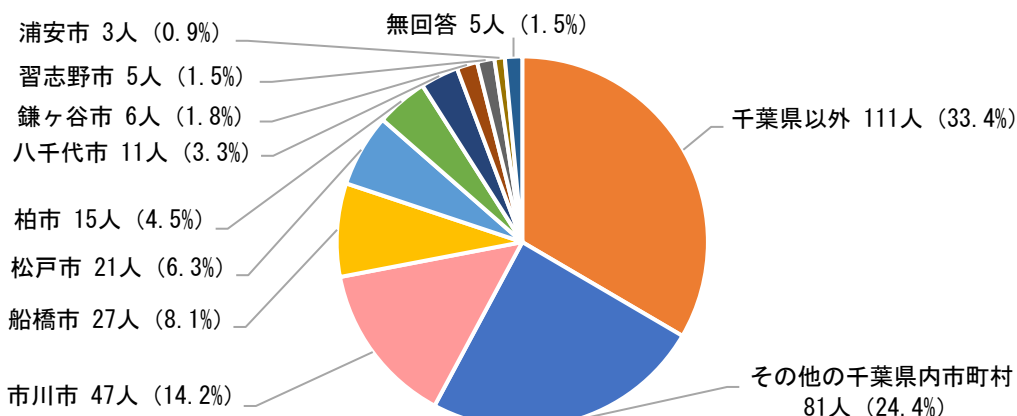
【グラフ】（学部生）回答者の性別について<2-1. 問 1 の結果より>



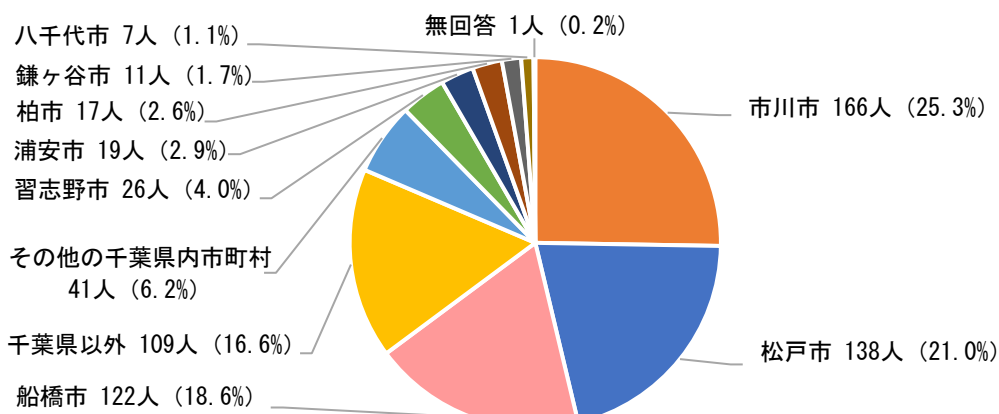
【グラフ】（看護職従事者）回答者の性別について<2-2. 問 1 の結果より>



【グラフ】(学部生) 回答者の居住地について<2-1. 問2の結果より>



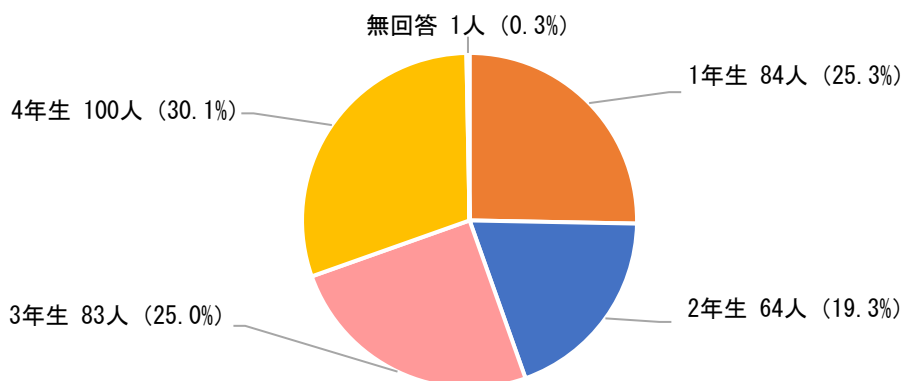
【グラフ】(看護職従事者) 回答者の居住地について<2-2. 問2の結果より>



● 令和6年4月に進学する可能性が最も高い3年生は、83人からの回答

2-1 問3 (学部生) の回答者の学年については、1年生が84人 (25.3%)、2年生が64人 (19.3%)、3年生が83人 (25.0%)、4年生が100人 (30.1%) であった。

【グラフ】(学部生) 回答者の学年について<2-1. 問3の結果より>

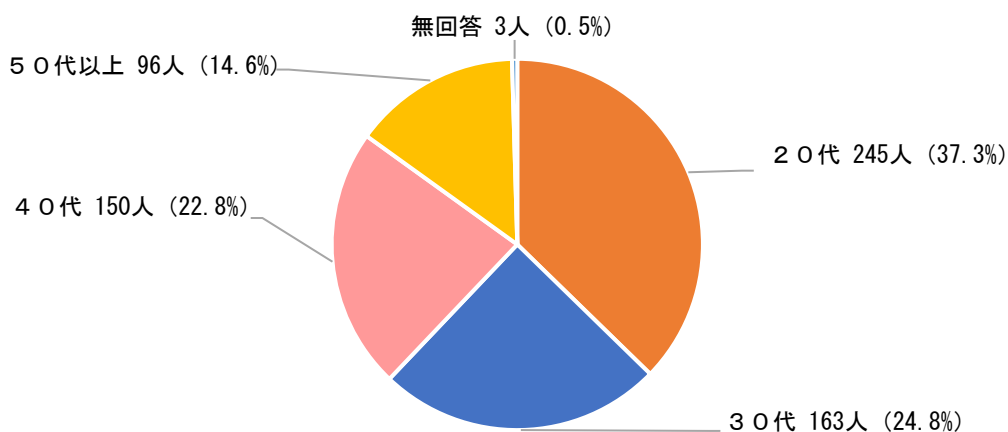


● 年齢は約 4 割が 20 代で、最終学歴は看護専門学校が約 5 割、看護系大学が約 3 割からの回答となった。

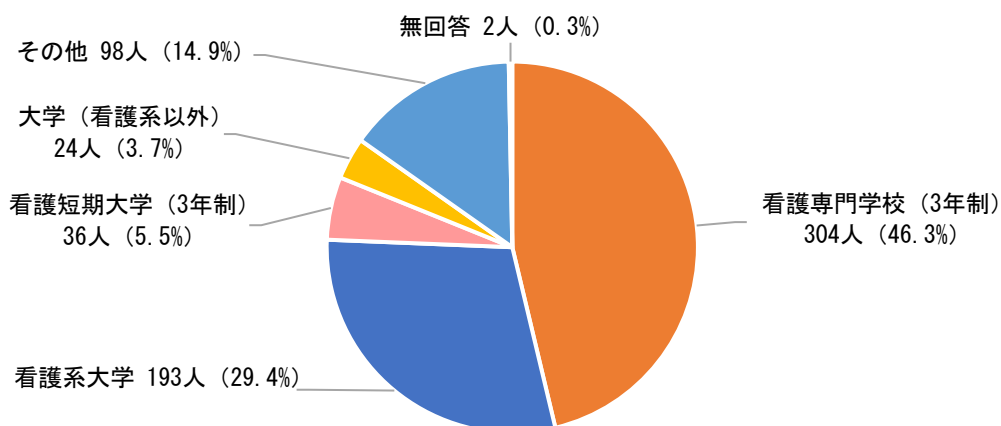
2-2 問 3 (看護職従事者) の回答者の年齢については、20 代が 245 人 (37.3%)、30 代が 163 人 (24.8%)、40 代が 150 人 (22.8%)、50 代以上が 96 人 (14.6%) であった。

2-2 問 4 (看護職従事者) の回答者の最終学歴については、看護専門学校 (3 年制) が 304 人 (46.3%)、看護系大学が 193 人 (29.4%)、看護短期大学 (3 年制) が 36 人 (5.5%)、大学 (看護系以外) が 24 人 (3.7%)、その他が 98 人 (14.9%) であった。

【グラフ】(看護職従事者) 回答者の年齢について<2-2. 問 3 の結果より>



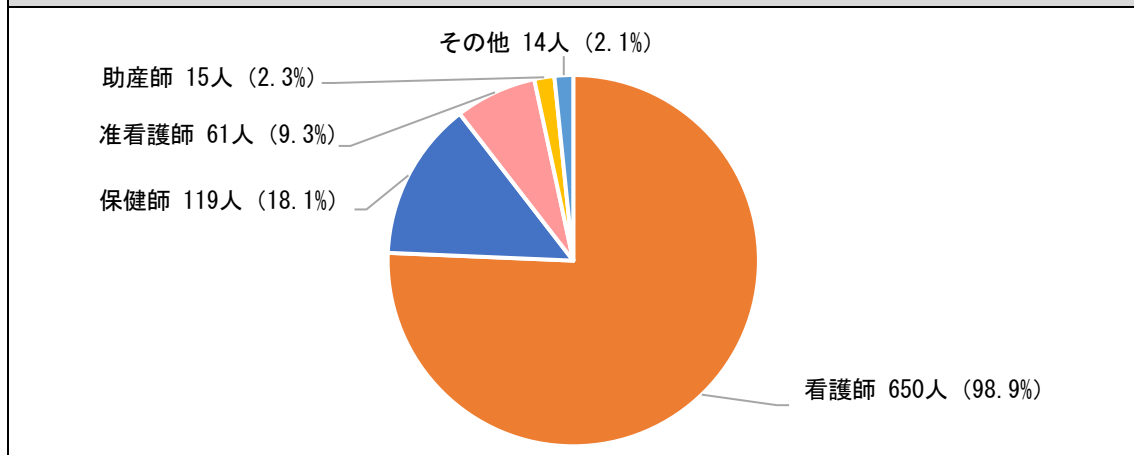
【グラフ】(看護職従事者) 回答者の最終学歴について<2-2. 問 4 の結果より>



● 看護師、保健師、助産師、准看護師の資格保有者を中心に調査

2-2 問 5（看護職従事者）の保有している免許については、回答の多い順に、看護師が 650 人（98.9%）、保健師が 119 人（18.1%）、准看護師が 61 人（9.3%）、助産師が 15 人（2.3%）、その他が 14 人（2.1%）からの回答となった。

【グラフ】（看護職従事者）回答者が保有している免許について<2-2. 問 5 の結果より>



● 看護師、保健師、助産師、准看護師の看護職者を中心に調査

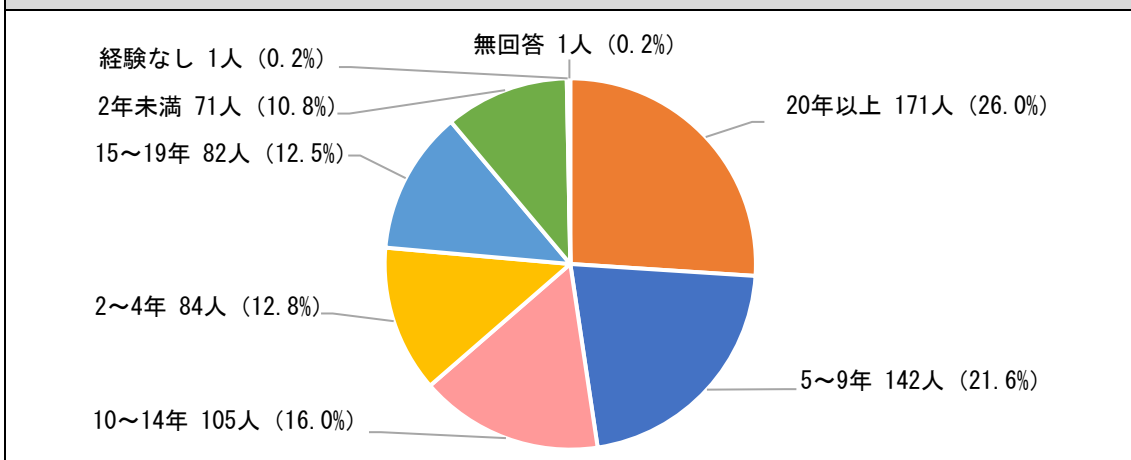
回答者の職場の状況等の質問では、2-2 問 6（看護職従事者）の看護職としての経験年数については、回答の多い順に、20 年以上が 171 人（26.0%）、5～9 年が 142 人（21.6%）、10～14 年が 105 人（16.0%）、2～4 年が 84 人（12.8%）、15～19 年が 82 人（12.5%）、2 年未満が 71 人（10.8%）、経験なしが 1 人（0.2%）であった。

2-2 問 7（看護職従事者）の所属する現在の職場については、病院（300～500 床未満）が 375 人（57.1%）、病院（100～300 床未満）が 141 人（21.5%）、病院（500 床以上）が 105 人（16.0%）、訪問看護ステーション、保健所（健康福祉センター）が 4 人（0.6%）、企業が 3 人（0.5%）、病院（100 床未満）が 1 人（0.2%）、その他が 21 人（3.2%）であった。

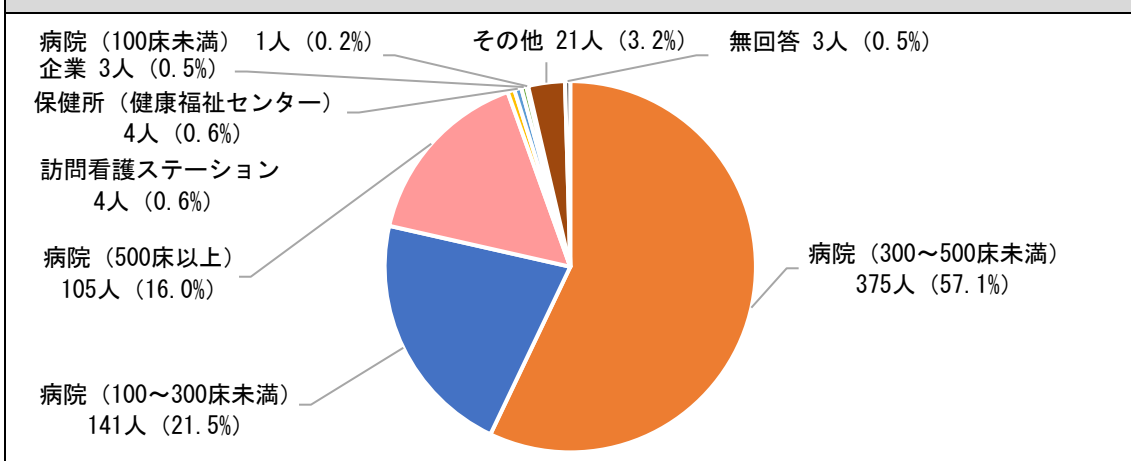
2-2 問 8（看護職従事者）の職場の所在地については、市川市が 282 人（42.9%）、松戸市が 151 人（23.0%）、船橋市が 109 人（16.6%）、習志野市が 41 人（6.2%）、千葉県以外が 40 人（6.1%）、浦安市が 18 人（2.7%）、その他の千葉県内市町村が 11 人（1.7%）、八千代市が 2 人（0.3%）であった。

2-2 問 9（看護職従事者）の回答者の職業については、看護師が 626 人（95.3%）、保健師が 14 人（2.1%）、助産師が 10 人（1.5%）、准看護師が 4 人（0.6%）、その他が 1 人（0.2%）であった。

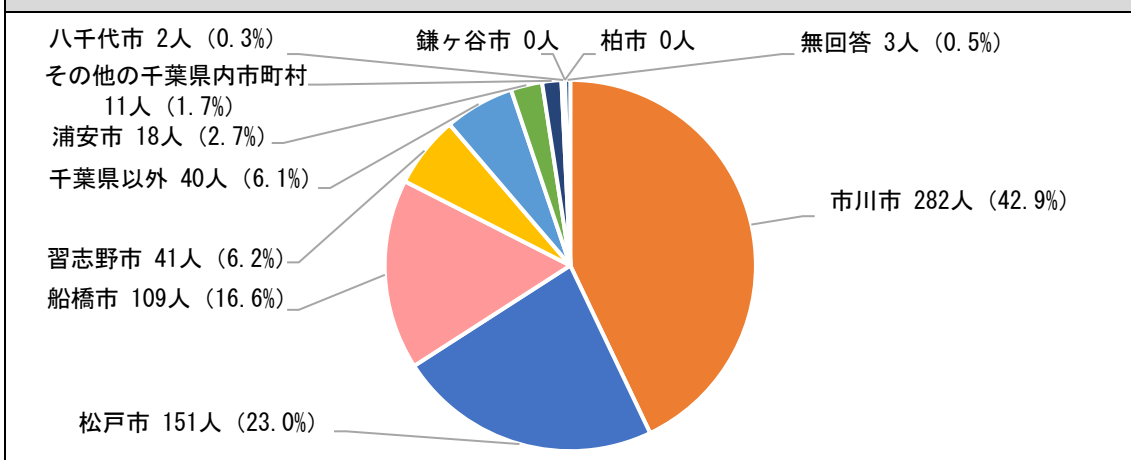
【グラフ】（看護職従事者）回答者の看護職としての経験年数について<2-2. 問6の結果より>



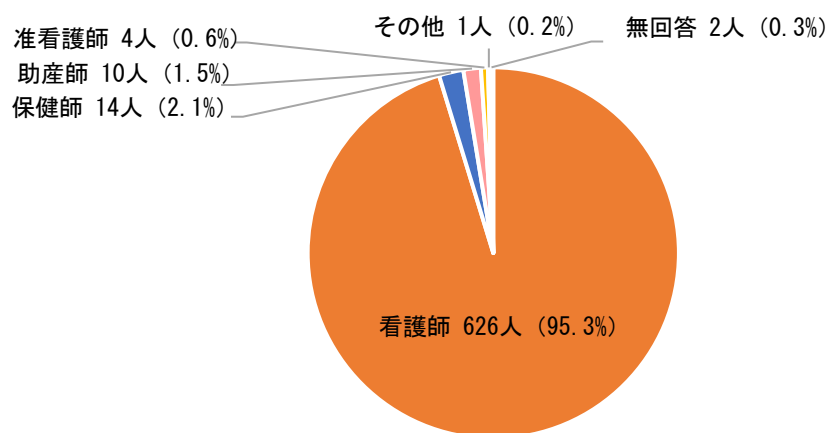
【グラフ】（看護職従事者）回答者が所属する現在の職場について<2-2. 問7の結果より>



【グラフ】（看護職従事者）回答者の職場の所在地について<2-2. 問8の結果より>



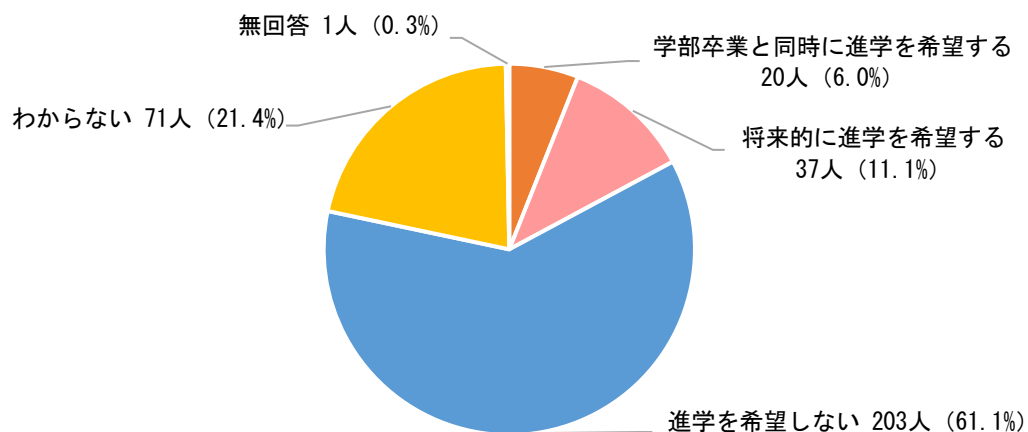
【グラフ】（看護職従事者）回答者の職業について<2-2. 問9の結果より>



● 学部生の大学院への進学を希望する者は、57 人であった。

2-1 問 4（学部生）の大学院への進学の希望については、学部卒業と同時に進学を希望する者が 20 人（6.0%）、将来的に進学を希望する者が 37 人（11.1%）であり、合計 57 人で全体の 17.1%が大学院への進学を希望している回答であった。

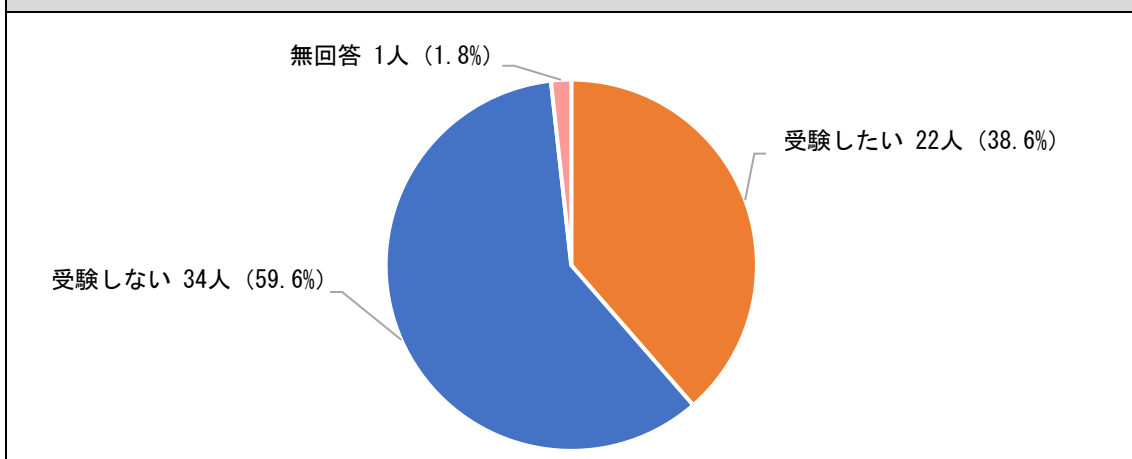
【グラフ】（学部生）大学院進学の希望について<2-1. 問 4 の結果より>



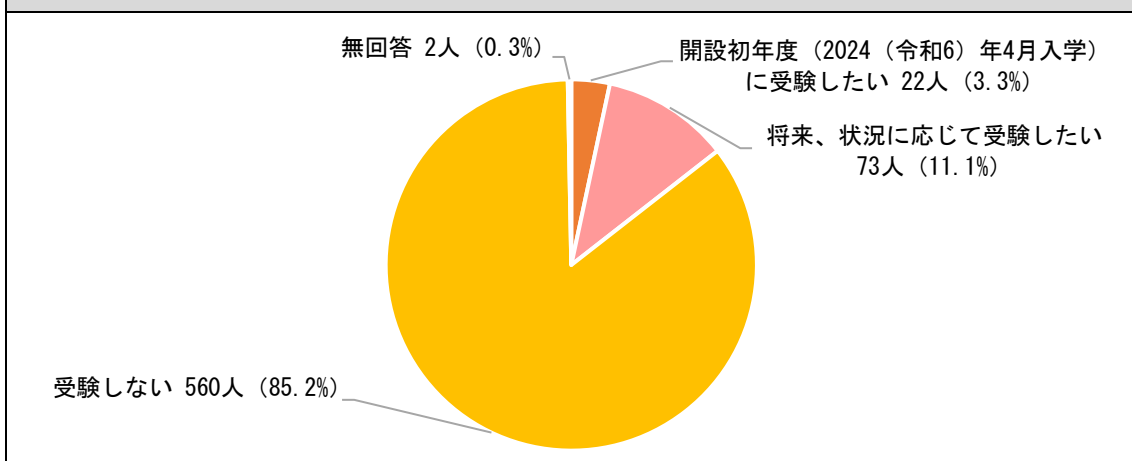
● 学部生 22 人、看護職従事者 95 人が受験意欲を示した。

当該研究科への受験意欲についての質問では、2-1 問 5 の学部生は、22 人 (38.6%) が「受験したい」と回答した。また、2-2 問 10 の看護職従事者は、「開設初年度 (2024 (令和 6) 年 4 月入学) に受験したい」が 22 人 (3.3%)、「将来、状況に応じて受験したい」が 73 人 (11.1%) で、合計 95 人 (14.4%) が受験意欲を示した。

【グラフ】(学部生) 当該研究科への受験意欲について<2-1. 問 5 の結果より>



【グラフ】(看護職従事者) 当該研究科への受験意欲について<2-2. 問 10 の結果より>



- 当該研究科で修得したい知識・能力については、学部生は専門看護師、認定看護管理者などの資格を取得するため全体の約6割、看護職従事者は将来的なキャリアの向上のため全体の約6割と最も多い回答であった。

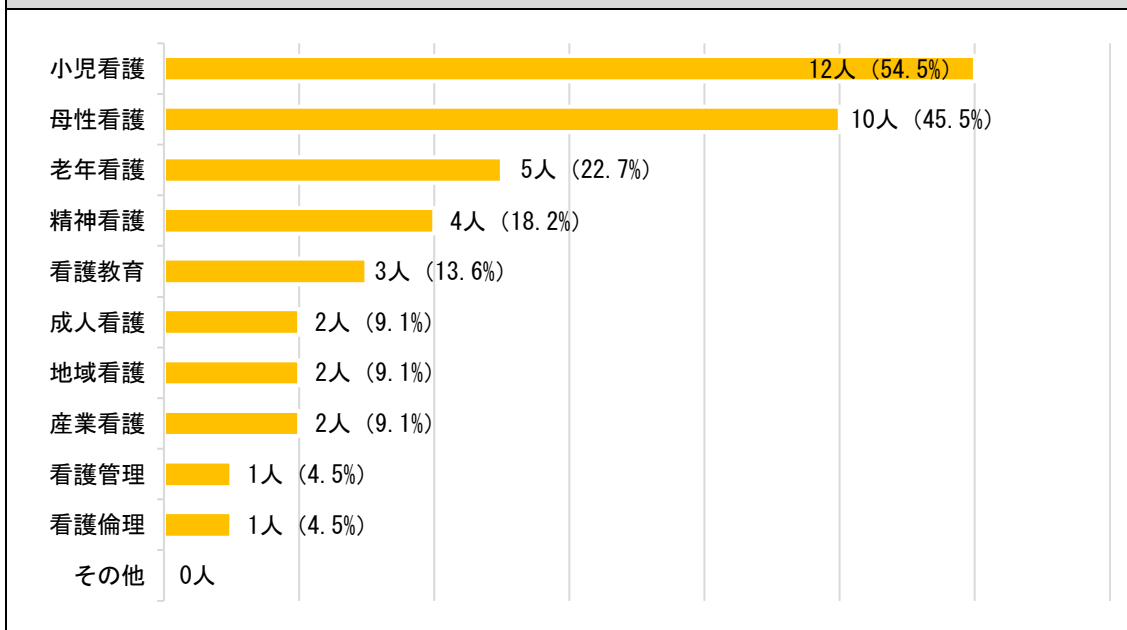
当該研究科の学びに対する興味・関心については、2-1問6（学部生）では、回答の多い順に、小児看護が12人（54.5%）、母性看護が10人（45.5%）、老年看護が5人（22.7%）、精神看護が4人（18.2%）、看護教育が3人（13.6%）、成人看護、地域看護、産業看護が2人（9.1%）、看護管理、看護倫理が1人（4.5%）であり、2-2問11（看護職従事者）では、地域看護が39人（41.1%）、成人看護が37人（38.9%）、看護教育が34人（35.8%）、看護管理が24人（25.3%）、看護倫理が23人（24.2%）、老年看護が21人（22.1%）、産業看護が15人（15.8%）、小児看護が12人（12.6%）、精神看護が10人（10.5%）、母性看護が7人（7.4%）、その他5人（5.3%）であった。

当該研究科で修得したい知識・能力については、2-1問7（学部生）では、回答の多い順に、専門看護師、認定看護管理者などの資格を取得するため13人（59.1%）、高度な専門的知識・技術を身につけるため11人（50.0%）、将来的なキャリアの向上のため9人（40.9%）、学位（修士）を取得するため4人（18.2%）、看護の研究職・教育職に就きたいため3人（13.6%）、教育研究内容を深めるため1人（4.5%）、その他が2人（9.1%）であり、2-2問12（看護職従事者）では、将来的なキャリアの向上のため53人（55.8%）、高度な専門的知識・技術を身につけるため49人（51.6%）、学位（修士）を取得するため37人（38.9%）、専門看護師、認定看護管理者などの資格を取得するため33人（34.7%）、看護の研究職・教育職に就きたいため23人（24.2%）、教育研究内容を深めるため11人（11.6%）、大学院で特に研究したい分野があるため3人（3.2%）、その他が1人（1.1%）であった。

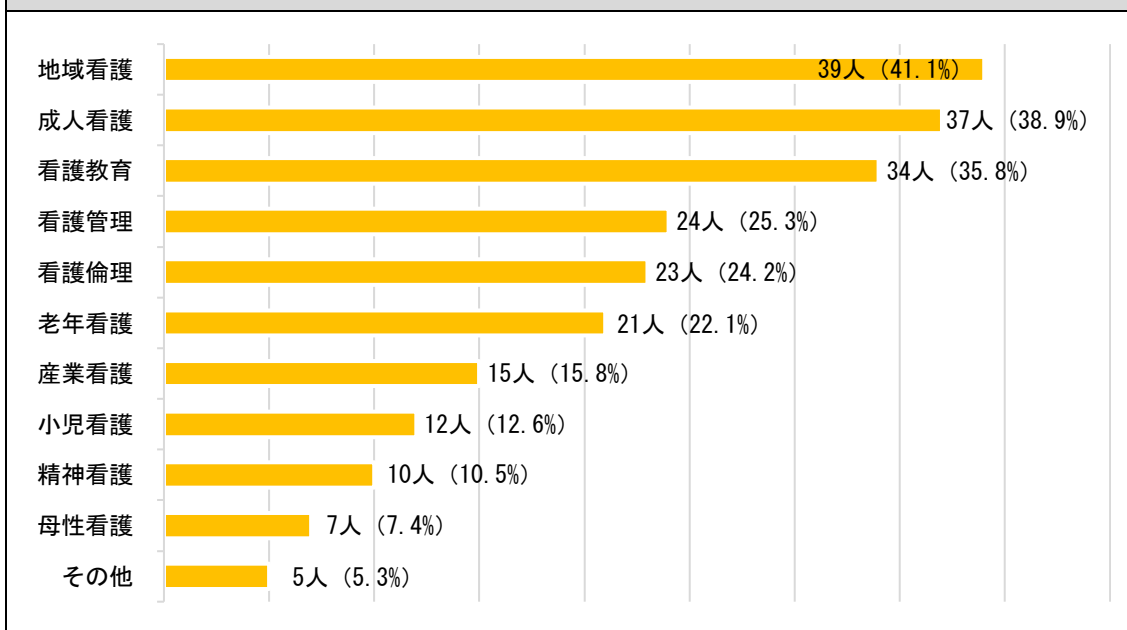
大学院進学に関して重要視する事柄については、2-1問8（学部生）では、回答の多い順に、通学距離、学費（授業料など）が11人（50.0%）、入試科目が9人（40.9%）、奨学金が8人（36.4%）、平日の夜間に開講、研究及び教育科目の内容が7人（31.8%）、土曜日に開講が4人（18.2%）、日曜日・祝日に開講、指導教員が3人（13.6%）、長期履修制度の有無が2人（9.1%）であり、2-2問13（看護職従事者）では、学費（授業料など）が80人（84.2%）、勤務しながら通学できるかどうか75人（78.9%）、通学距離が54人（56.8%）、平日の夜間に開講が39人（41.1%）、入試科目が34人（35.8%）、研究及び教育科目の内容が29人（30.5%）、土曜日に開講が24人（25.3%）、奨学金が22人（23.2%）、長期履修制度の有無が21人（22.1%）、日曜日・祝日に開講が17人（17.9%）、指導教員が14人（14.7%）、その他が3人（3.2%）であった。

2-2問14（看護職従事者）の回答者の通学可能な時間帯については、平日の夜間が46人（48.4%）で最も多く、次いで不定期が41人（43.2%）、土日昼間が34人（35.8%）、土日夜間が21人（22.1%）、平日の昼間が15人（15.8%）、その他が4人（4.2%）であった。

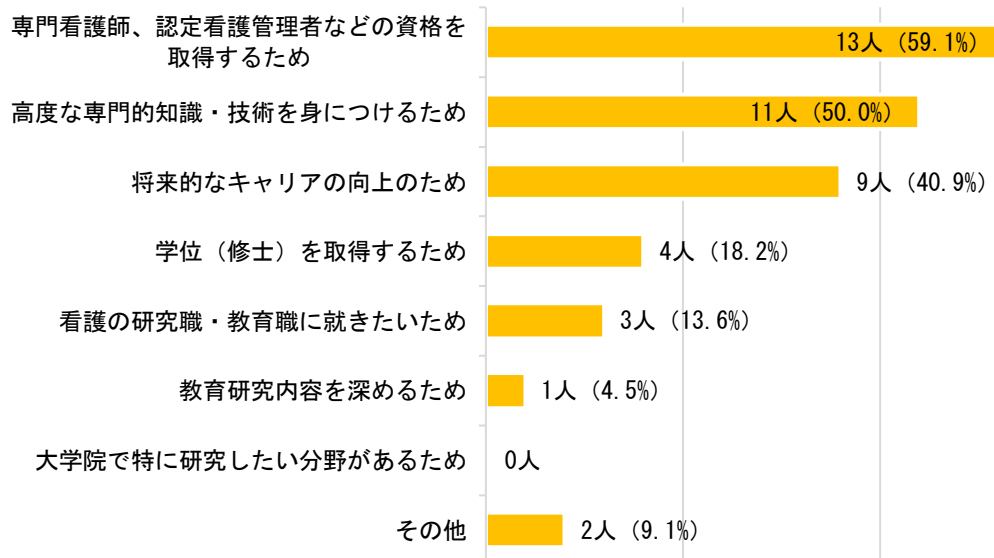
【グラフ】（学部生）当該研究科の学びに対する興味・関心について<2-1. 問6の結果より>



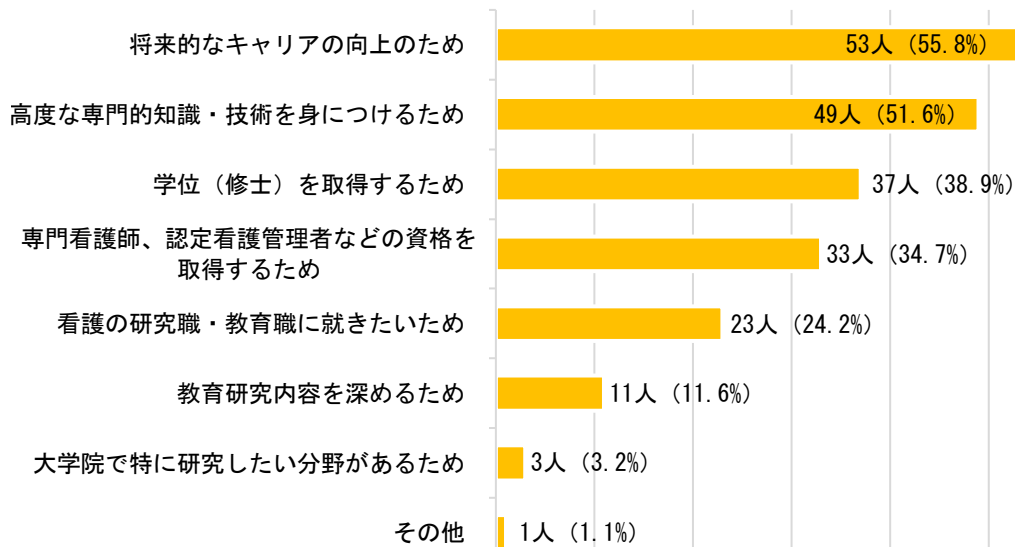
【グラフ】（看護職従事者）当該研究科の学びに対する興味・関心について<2-2. 問11の結果より>



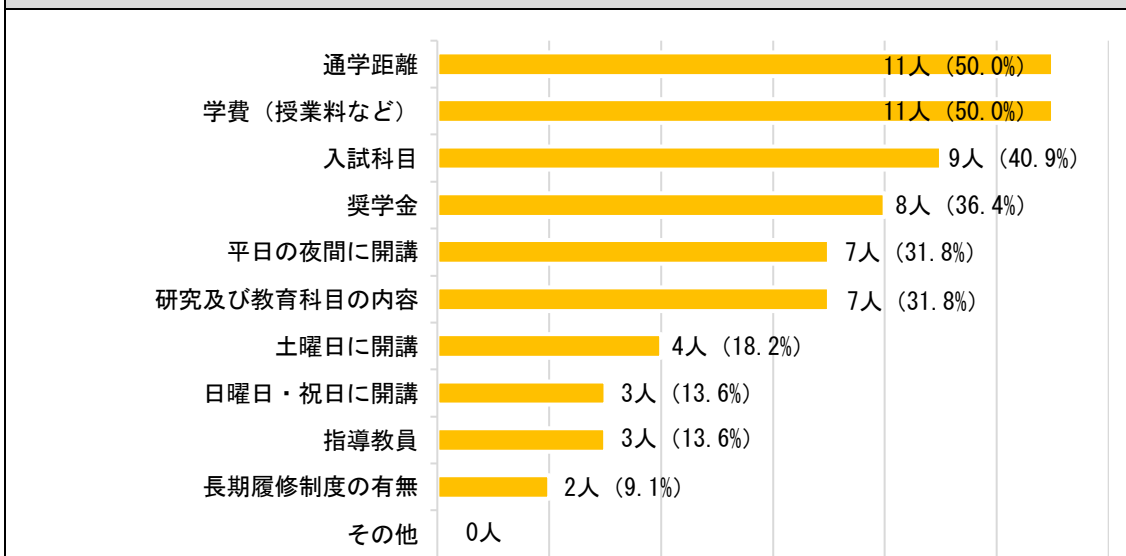
【グラフ】（学部生）当該研究科で修得したい知識・能力について<2-1. 問7の結果より>



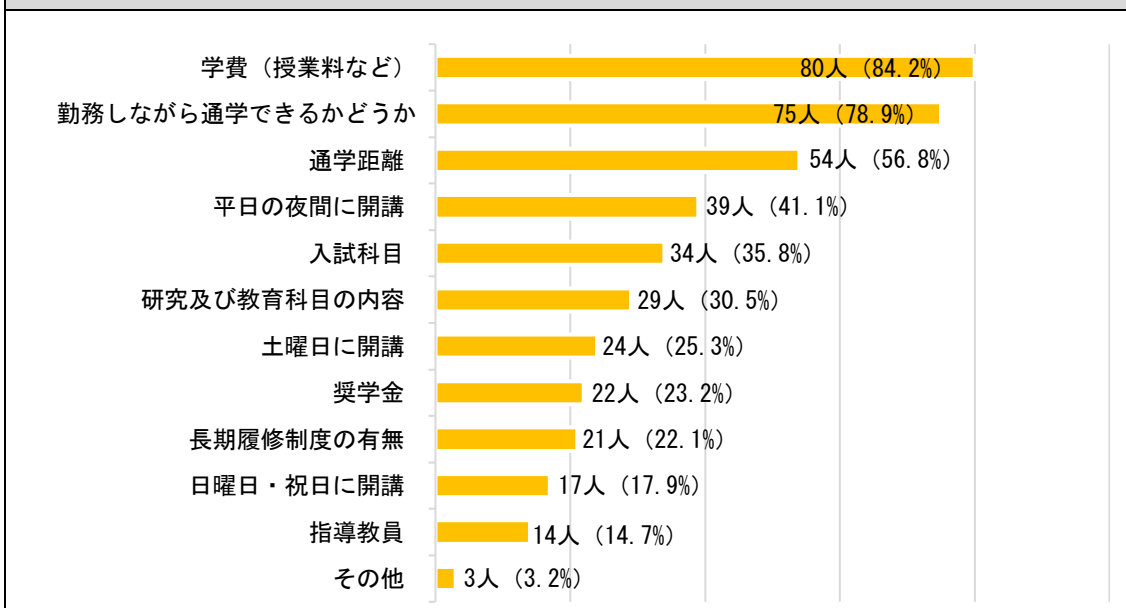
【グラフ】（看護職従事者）当該研究科で修得したい知識・能力について<2-2. 問12の結果より>



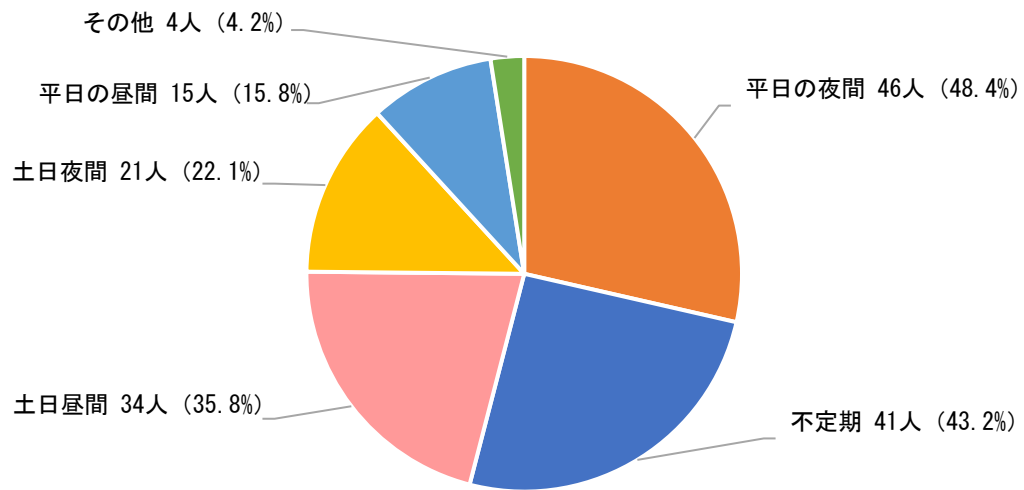
【グラフ】（学部生）大学院進学に関して重要視する事柄について<2-1. 問 8 の結果より>



【グラフ】（看護職従事者）大学院進学に関して重要視する事柄について<2-2. 問 13 の結果より>



【グラフ】（看護職従事者）回答者の通学可能な時間帯について<2-2. 問 14 の結果より>

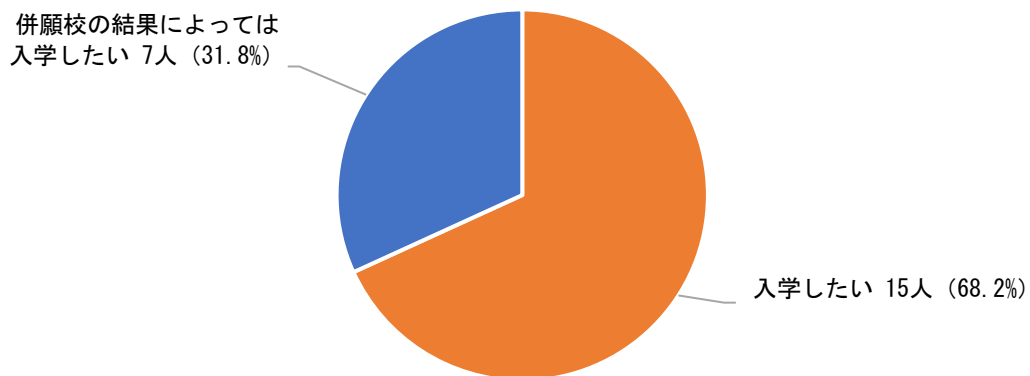


● 予定している入学定員 6 名を大きく上回る者が入学意欲を示す結果

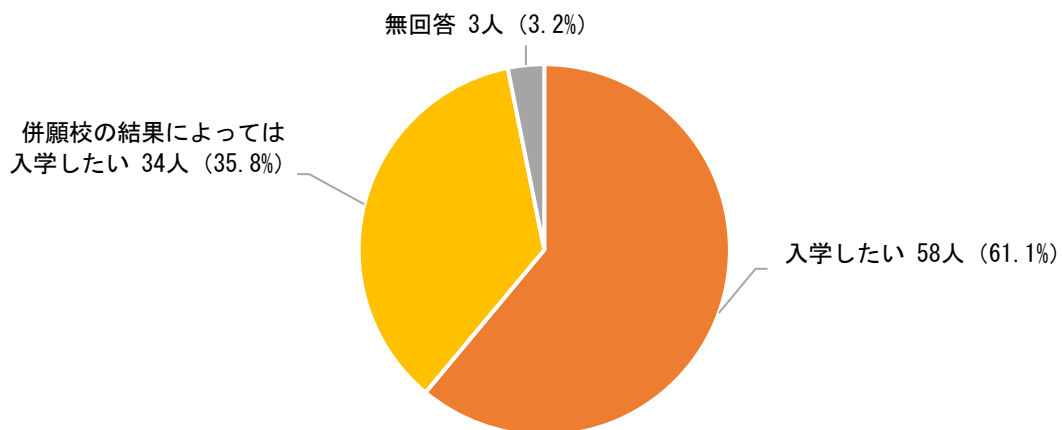
当該研究科への入学意欲についての質問では、受験意欲を示した者のうち、2-1 問 9 の学部生は、「入学したい」が 15 人 (68.2%)、「併願校の結果によっては入学したい」が 7 人 (31.8%) となり、2-2 問 15 の看護職従事者は、「入学したい」が 58 人 (61.1%)、「併願校の結果によっては入学したい」が 34 人 (35.8%) となった。

当該研究科の入学定員は 6 名であり、それを十分に上回る受験・入学意欲の回答を得た結果となった。

【グラフ】(学部生) 当該研究科への入学意欲について<2-1. 問 9 の結果より>



【グラフ】(看護職従事者) 当該研究科への入学意欲について<2-2. 問 15 の結果より>



4. 集計結果の分析

学部生の当該研究科への受験・入学意欲がある者の学年（問3）、大学院への進学希望（問4）、受験意欲（問5）、入学意欲（問9）のクロス集計結果は、以下の通りである。

学年（問3）		大学院への進学（問4）		受験意欲（問5）		入学意欲（問9）	
選択項目	回答数	選択項目	回答数	選択項目	回答数	選択項目	回答数
3年生	83	学部卒業と同時に進学を希望する	9	受験したい	3	入学したい	1
						併願校の結果によっては入学したい	2
		将来的に進学を希望する	6	受験したい	1	入学したい	0
						併願校の結果によっては入学したい	1
3年生以外	249	学部卒業と同時に進学を希望する	11	受験したい	2	入学したい	2
						併願校の結果によっては入学したい	0
		将来的に進学を希望する	31	受験したい	16	入学したい	12
						併願校の結果によっては入学したい	4
合計	332		57		22		22

また、看護職従事者の当該研究科への受験・入学意欲がある者の受験意欲（問10）、入学意欲（問15）のクロス集計結果は、以下の通りである。

受験意欲（問10）		入学意欲（問15）	
選択項目	回答数	選択項目	回答数
開設初年度(2024(令和6)年4月入学)に受験したい	22	入学したい	21
		併願校の結果によっては入学したい	0
		無回答	1
将来、状況に応じて受験したい	73	入学したい	37
		併願校の結果によっては入学したい	34
		無回答	2
合計	95		95

上記のクロス集計より、開設初年度（2024（令和6）年4月入学）に受験し、且つ入学したいと回答した者は、学部生が1人、看護職従事者が21人の合計22人であり、本研究科の予定する入学定員の6名を上回る入学の意欲が示される回答であった。

また、将来、必要に応じて受験し、且つ入学したいと回答した者は、合計51人（学部生14人、看護職従事者37人）であった。

以上の結果より、和洋女子大学大学院が2024（令和6）年4月に設置構想中の「看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）」の学生確保の見通しは、予定する入学定員の6名を上回る入学の意欲が示される回答結果であるため、問題なしと判断できる。

添付資料

和洋女子大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称）

- ・ 概要説明プリント
- ・ 学生確保の見通し調査票
 - ・ 設置構想についてのアンケート調査票（対象：学部生の皆様）
 - ・ 設置構想についてのアンケート調査（対象：看護職従事者の皆様）

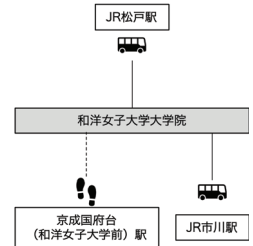
和洋女子大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 (仮称)

2024年4月開設予定
設置構想中

名称	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 (仮称)
開設時期	令和6 (2024) 年4月
入学定員	6名 ※男女共学
取得学位	修士 (看護学)
修業年限	2年
設置場所	千葉県市川市 (国府台キャンパス内)

<所在地>千葉県市川市国府台2-3-1

- 京成国府台駅下車→徒歩9分
- JR市川駅下車→バス8分
「市川駅」→松戸営業所行「真間山下」下車
- JR松戸駅→バス20分
「松戸駅」→市川駅行「和洋女子大学前」下車



養成する人材像

看護実践の具体的な諸課題に焦点をあて、その問題解決能力の育成をし、実践の場において、次の能力を有する人材を養成します。

- ①看護職の高度かつ幅広い専門性を備え、自らが関わる組織あるいはコミュニティを統括することができる人材
- ②時代のニーズに応えるため広い視野を磨き、乳幼児期、妊娠・出生から老年期までのライフコースに寄り添ってセルフマネジメントの支援ができる人材
- ③地域包括ケアシステムおよび産業看護・公衆衛生において、心身両面からの健康維持と向上を支援し、専門職間連携に関する視点を看護学に応用した研究課題に取り組める人材
- ④看護領域でリーダーとして活躍するため、自身の心身の健康を自己管理できる人材
- ⑤臨床において、組織の将来を見据え創造的に提言できる高いマネジメント能力および倫理的実践能力を有する人材

学問領域

大学院での研究を進めるにあたって、基盤となる「共通科目」を学修したうえで、専攻する専門領域を学修します。カリキュラムでは、「基盤看護学領域」と「広域看護学領域」の2つの領域に分けられ、領域ごとに特論 (講義) から演習、特別研究と体系的な学びを展開します。30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格することで、修士 (看護学) の学位が授与されます。

和洋女子大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (仮称) では、以下の5つの能力が身につきます。

- | | | | | |
|---|---|--|--|---|
| 01
看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方法を探求する能力 | 02
専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力 | 03
高い倫理観をもち、複雑な倫理的課題に対応できる能力 | 04
ケアの対象者および多職種を持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力 | 05
看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力 |
|---|---|--|--|---|

修士課程

看護学研究科	共通科目 <ul style="list-style-type: none"> ● 看護研究 ● 看護倫理 ● 疫学保健統計学 ● 地域包括ケア論 ● 公衆衛生学 ● 社会福祉論 ● 看護教育論 ● チーム医療論 ● 臨床心理学 など 	基盤看護学領域 <ul style="list-style-type: none"> ● 看護管理 ● 成人看護学 ● 老年看護学 ● 小児看護学 	特別研究	修士論文	予定する支援制度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平日夜間・土曜日開講 ・ 長期履修制度 (※) <p>※長期履修制度とは職業を有している等の事情により、最長4年間で計画的に教育課程を履修し、修了する制度</p>
	広域看護学領域 <ul style="list-style-type: none"> ● 健康医療政策学 ● 産業看護学 ● 地域看護学 ● 精神看護学 ● ウィメンズヘルス看護学 				

種別	大学院名	所在地	募集定員	入学金*	授業料	施設設備費	小計	実験・実習費	その他*	合計
私立	和洋女子大学大学院	市川市	6名	175,000円	520,000円	300,000円	995,000円	-	-	995,000円
私立	東京医療保健大学 千葉大学院	船橋市	8名	500,000円	1,000,000円	-	1,500,000円	-	84,500円	1,584,500円
私立	聖徳大学大学院	松戸市	8名	440,000円	650,000円	300,000円	1,390,000円	-	17,930円	1,407,930円
私立	淑徳大学大学院	千葉市	5名	200,000円	800,000円	100,000円	1,100,000円	-	59,950円	1,159,950円
国立	千葉大学大学院	千葉市	40名	282,000円	642,960円	-	924,960円	-	-	924,960円
私立	順天堂大学大学院	浦安市	25名	200,000円	550,000円	-	750,000円	50,000円	-	800,000円

令和4年度の各大学院募集要項より掲載しています。(注※) 入学金: 他大学を卒業した場合の入学金を掲載 その他: 保険や同窓会費などを含む

※和洋女子大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (仮称) は設置構想中であり、今後内容は変更になる可能性があります。

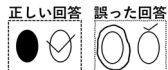


和洋女子大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称） 設置構想についてのアンケート調査 （対象：学部生の皆様）

和洋女子大学大学院は、2024（令和6）年4月に看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）の新設を構想しております。本学では、この調査を通して、皆様の学部卒業時の進路についてのご意見などをお聞きし、構想内容に反映したいと考えております。なお、回答いただいた皆様から得られた情報は、本研究科の設置構想に関わる統計資料及び文部科学省への提出書類の一部としてのみ活用し、個人が特定されることはございません。つきましては、別紙の概要をご覧ください。アンケートへのご協力をよろしくお願い申し上げます。
※このアンケート調査は和洋女子大学大学院設置準備室から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※概要及びアンケートに記載されている新研究科の内容については予定であり、変更される可能性があります。

【アンケート記入にあたっての注意事項】

- ・記入は必ずシャープペンシル、又は黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
- ・下記の「正しい回答」のように丁寧に塗りつぶしてください。「誤った回答」の場合、正確に読み込めず判断できない場合があります。



問1 あなたの性別を教えてください。

- 女性 答えたくない

問2 あなたの居住地を教えてください。

- 市川市 船橋市 習志野市 八千代市 鎌ヶ谷市 浦安市 松戸市 柏市 その他の千葉県内市町村
 千葉県以外

問3 あなた現在の学年を教えてください。

- 1年生 2年生 3年生 4年生

問4 大学卒業後の大学院への進学について、どのように考えていますか。

- 学部卒業と同時に進学を希望する 将来的に進学を希望する
 進学を希望しない →質問は以上となります。 わからない →質問は以上となります。

問5は、問4で「学部卒業と同時に進学を希望する」「将来的に進学を希望する」と回答した方がお答えください。

問5 あなたは2024（令和6）年4月開設予定の和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）を受験したいと思いませんか。

- 受験したい
 受験しない →質問は以上となります。

以下の問6～問9は、問5で「受験したい」と回答した方がお答えください。

問6 和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）の学びのなかで、あなたが興味をもつものを教えてください。（あてはまるもの全てにマークしてください）

- 看護管理 看護倫理 看護教育 成人看護 老年看護 精神看護
 小児看護 母性看護 地域看護 産業看護 その他



本アンケート調査用紙に印刷されているQRコードは集計時に使用するものです。個人の特定を目的とするものではありません。



問7 あなたが和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）で修得したい知識・能力を教えてください。（あてはまるものに全てにマークをしてください）

- 教育研究内容を深めるため
- 高度な専門的知識・技術を身につけるため
- 大学院で特に研究したい分野があるため
- 専門看護師、認定看護管理者などの資格を取得するため
- 学位（修士）を取得するため
- 看護の研究職・教育職に就きたいため
- 将来的なキャリアの向上のため
- その他

問8 あなたが大学院進学に関して重要視する事柄について教えてください。（あてはまるもの全てにマークをしてください）

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| <input type="radio"/> 平日の夜間に開講 | <input type="radio"/> 土曜日に開講 |
| <input type="radio"/> 日曜日・祝日に開講 | <input type="radio"/> 通学距離 |
| <input type="radio"/> 指導教員 | <input type="radio"/> 研究及び教育科目の内容 |
| <input type="radio"/> 入試科目 | <input type="radio"/> 長期履修制度の有無（※） |
| <input type="radio"/> 学費（授業料など） | <input type="radio"/> 奨学金 |
| <input type="radio"/> その他 | |

※長期履修制度とは、職業を有している等の事情により、最長4年間で計画的に教育課程を履修し、修了する制度です。

問9 あなたは和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。

- 入学したい
- 併願校の結果によっては入学したい

質問は以上となります。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。





和洋女子大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称） 設置構想についてのアンケート調査

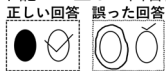
（対象：看護職従事者の皆様）

和洋女子大学大学院は、2024（令和6）年4月に看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）の新設を構想しております。本学では、この調査を通して、皆様のキャリアについてのご意見などをお聞きし、構想内容に反映したいと考えております。なお、皆様から得られた情報は、本研究科の設置構想に関わる統計資料及び文部科学省への提出書類の一部としてのみ活用し、個人が特定されることはございません。つきましては、別紙の概要をご覧ください。

※このアンケート調査は和洋女子大学大学院設置準備室から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※概要及びアンケートに記載されている新研究科の内容については予定であり、変更される可能性があります。

【アンケート記入にあたっての注意事項】

- ・記入は必ずシャープペンシル、又は黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
- ・下記の「正しい回答」のように丁寧に塗りつぶしてください。「誤った回答」の場合、正確に読み込めず判断できない場合があります。



問1 あなたの性別を教えてください。

- 女性 男性 答えたくない

問2 あなたの居住地を教えてください。

- 市川市 船橋市 習志野市 八千代市 鎌ヶ谷市 浦安市 松戸市 柏市 その他の千葉県内市町村
 千葉県以外

問3 あなたの年齢を教えてください。

- 20代 30代 40代 50代以上

問4 あなたの最終学歴を教えてください。

- 看護専門学校（3年制） 看護短期大学（3年制） 看護系大学 大学（看護系以外）
 その他

問5 あなたが保有している免許を教えてください。（あてはまるもの全てにマークをしてください）

- 看護師 保健師 助産師 准看護師 その他

問6 あなたの看護職としての経験年数を教えてください。

- 2年未満 2～4年 5～9年 10～14年 15～19年 20年以上 経験なし

問7 あなたが所属する現在の職場について教えてください。

- 病院（100床未満） 病院（100～300床未満） 病院（300～500床未満） 病院（500床以上）
 訪問看護ステーション 保健所（健康福祉センター） 企業 その他

アンケートは中面にも続きます。



本アンケート調査用紙に印刷されているQRコードは集計時に使用するものです。個人の特定を目的とするものではありません。



問8 あなたの職場の所在地について教えてください。

- 市川市 船橋市 習志野市 八千代市 鎌ヶ谷市 浦安市 松戸市 柏市 その他の千葉県内市町村
 千葉県以外

問9 あなたの現在の職業を教えてください。

- 看護師 保健師 助産師 准看護師 その他

問10 あなたは2024（令和6）年4月開設予定の和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）を受験したいと思いますか。

- 開設初年度（2024（令和6）年4月入学）に受験したい ⇒問11へお進みください
 将来、状況に応じて受験したい ⇒問11へお進みください
 受験しない ⇒問16へお進みください

問11～問15は、問10で「開設初年度（2024（令和6）年4月入学）に受験したい」「将来、状況に応じて受験したい」と回答した方がお答えください。

問11 和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）の学びのなかで、あなたが興味をもつものを教えてください。（あてはまるもの全てにマークしてください）

- 看護管理 看護倫理 看護教育 成人看護 老年看護 精神看護
 小児看護 母性看護 地域看護 産業看護 その他

問12 あなたが和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）で修得したい知識・能力を教えてください。（あてはまるものに全てにマークをしてください）

- 教育研究内容を深めるため 高度な専門的知識・技術を身につけるため
 大学院で特に研究したい分野があるため 専門看護師、認定看護管理者などの資格を取得するため
 学位（修士）を取得するため 看護の研究職・教育職に就きたいため
 将来的なキャリアの向上のため
 その他

問13 あなたが大学院進学に関して重要視する事柄について教えてください。（あてはまるもの全てにマークをしてください）

- 平日の夜間に開講 土曜日に開講 日曜日・祝日に開講
 通学距離 指導教員 研究及び教育科目の内容
 入試科目 長期履修制度の有無（※） 学費（授業料など）
 勤務しながら通学できるかどうか 奨学金 その他

※長期履修制度とは、職業を有している等の事情により、最長4年間で計画的に教育課程を履修し、修了する制度です。





問 14 あなたが大学院進学の際に通学可能な時間帯について教えてください。（あてはまるもの全てにマークをしてください）

- | | |
|-----------------------------|--|
| <input type="radio"/> 平日の昼間 | <input type="radio"/> 平日の夜間 |
| <input type="radio"/> 土日昼間 | <input type="radio"/> 土日夜間 |
| <input type="radio"/> 不定期 | <input type="radio"/> その他 <input style="width: 150px; height: 15px;" type="text"/> |

問 15 あなたは和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）を受験し、合格した場合、入学したいと思いますか。

- 入学したい
- 併願校の結果によっては入学したい

問16は、問10で「受験しない」と回答した方がお答えください。

問 16 あなたが和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）を「受験しない」と回答した理由を教えてください。（あてはまるもの全てにマークをしてください）

- 進みたい領域がないため
- 教育内容や特色に関心をもてないため
- 大学院に進学する必要性を感じないため
- 経済的理由のため
- 勤務や自身の生活との両立が難しいため
- もっと実務経験を積んでから大学院に進学したいため
- その他

質問は以上となります。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。



【資料5】看護学研究科の入学志願動向

	研究科数 A	入学定員 B	志願者数 C	入学者数 D	充足率 D/B	1研究科あたりの 入学定員 B/A	1研究科あたりの 入学者数 D/A
H30	57	606人	592人	466人	76.90%	10.6人	8.2人
R元	60	629人	529人	419人	66.61%	10.5人	7.0人
R2	64	656人	600人	426人	64.94%	10.3人	6.7人
R3	69	695人	595人	455人	65.47%	10.1人	6.6人
R4	73	719人	687人	479人	66.62%	9.8人	6.6人
H30→R4	16	113人	95人	13人			

参照：日本私立学校振興・共済事業団より『私立大学・短期大学等入学志願動向』各年度から抽出

【資料6】 看護師総数の推移

年	看護師総数	前年増減	うち、病院に従事		うち、看護師等学校養成所・研究機関に従事	
			人数	総数における割合	人数	総数における割合
H23年末	1,027,337人		734,562人	71.5%	13,777人	1.3%
H24年	1,067,760人	40,423人	756,909人	70.9%	14,664人	1.4%
H25年	1,103,913人	36,153人	779,379人	70.6%	15,170人	1.4%
H26年	1,142,319人	38,406人	800,908人	70.1%	15,603人	1.4%
H27年	1,176,859人	34,540人	821,306人	69.8%	16,147人	1.4%
H28年	1,210,665人	33,806人	840,508人	69.4%	16,120人	1.3%
H29年	1,223,322人	12,657人	849,341人	69.4%	16,553人	1.4%
H30年	1,256,970人	33,648人	865,090人	68.8%	16,867人	1.3%
R元年	1,272,024人	15,054人	876,227人	68.9%	17,148人	1.3%
R2年	—		—		—	
増加数(H23→R元)	244,687人	1.24	141,665人		3,371人	

参照：日本看護協会出版会『令和2年 看護関係統計資料集』より、
就業者数の“看護師”を抽出

【資料7】 千葉県内における看護職員数の推移(実数)

年度	看護師		保健師	
	人数	前年増減	人数	前年増減
平成26(2014)	38,739人		1,856人	
平成28(2016)	41,999人	3,260人	2,014人	158人
平成30(2018)	45,202人	3,203人	2,084人	70人
令和 2(2020)	48,391人	3,189人	2,124人	40人

平成26→令和2	9,652人		268人	
----------	--------	--	------	--

参照:厚生労働省『衛生行政報告例 隔年報』より抽出

【資料8】 千葉県内の私立・看護系大学院の学生確保の状況

大学名	研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	在籍者数	充足率
亀田医療大学大学院	看護学	看護学	10	20	23	1.15
淑徳大学大学院	看護学	看護学	5	10	9	0.90
順天堂大学大学院	医療看護学	看護学	29	54	61	1.13
聖徳大学大学院	看護学	看護学	8	16	17	1.06
千葉科学大学大学院	看護学	看護学	5	10	11	1.10
東京医療保健大学大学院	千葉看護学	看護学	8	16	20	1.25
6研究科の平均			65	126	141	1.12

参照:各大学Webサイトの情報公開より参照(いずれも令和4年5月1日時点による在籍者数)

【資料9】 本学の看護学部看護学科の募集状況

	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人
入学者数	114人	120人	93人	91人	103人
入学定員充足率	114.0%	120.0%	93.0%	91.0%	103.0%

【資料10】 本学の大学院修士課程の募集状況

研究科・専攻名		入学定員	平成30年度(2018)				令和元年度(2019)				令和2年度(2020)				令和3年度(2021)				令和4年度(2022)			
			志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者
人文科学 研究科	英語文学専攻	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	4	
	日本文学専攻	5	1	1	1	1	0	0	0	0	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2	2
	小計	10	1	1	1	1	0	0	0	0	2	2	2	2	3	3	3	3	7	7	6	6
総合生活 研究科	総合生活専攻 博士課程前期	8	3	3	3	3	2	2	2	2	8	8	8	8	0	0	0	0	4	4	4	4
	小計	8	3	3	3	3	2	2	2	2	8	8	8	8	0	0	0	0	4	4	4	4
合計		18	4	4	4	4	2	2	2	2	10	10	10	10	3	3	3	3	11	11	10	10

【資料11】 看護師養成大学卒業者のうち、進学者数の推移

年次	大学卒業者数	進学	進学率	参考				
				保健師として 就業	助産師として 就業	看護師として 就業	看護師業務 以外に就業	その他
H24.3	14,145人	580人	4.1%	697人	587人	11,585人	250人	446人
H25.3	15,000人	632人	4.2%	713人	510人	12,361人	254人	530人
H26.3	16,577人	678人	4.1%	746人	531人	13,797人	320人	505人
H27.3	16,874人	722人	4.3%	748人	477人	14,093人	355人	479人
H28.3	17,906人	815人	4.6%	782人	475人	15,033人	368人	433人
H29.3	18,723人	860人	4.6%	802人	444人	15,656人	359人	602人
H30.3	20,219人	881人	4.4%	864人	558人	17,089人	356人	471人
H31.3	21,398人	935人	4.4%	918人	521人	17,920人	421人	683人
R2.3	21,622人	960人	4.4%	1,031人	466人	18,017人	451人	697人
R3.3	22,611人	1,014人	4.5%	1,033人	495人	19,024人	407人	638人

H24→R3の増減	8,466人	434人		336人	-92人	7,439人	157人	192人
-----------	--------	------	--	------	------	--------	------	------

参照：日本看護協会出版会『令和2年 看護関係統計資料集』より抽出

千葉県保健医療計画

【概要版】



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん

少子高齢化が進展する中、特に高齢者人口の急増が見込まれる千葉県においては、今後、疾病構造は大きく変化し、医療需要も増加すると見込まれることから、超高齢社会に対応した保健医療提供体制の充実が緊急の課題です。

そこで、いわゆる「団塊の世代」がすべて75歳以上となる2025年において、本県が目指すべき医療提供体制を示す「地域医療構想」の実現に向けた具体的な実行計画となるよう、必要な取組を盛り込み、計画を全面改定しました。

医療機関の役割分担と連携を推進し、地域において切れ目のない医療の提供を実現することで、安心して質の高い医療提供体制の確保を図ります。

第1編 総論

第1章 改定に当たったの基本方針

計画の基本理念

県民一人ひとりが、
健やかに地域で暮らし、
心豊かに長寿を全うできる
総合的な
保健医療福祉システムづくり

計画の性格

医療提供体制の確保を図るための法定計画
(医療法第30条の4)

基本的施策の方向性

- 質の高い保健医療提供体制の構築
- 総合的な健康づくりの推進
- 保健・医療・福祉の連携確保
- 安全と生活を守る環境づくり

計画の期間

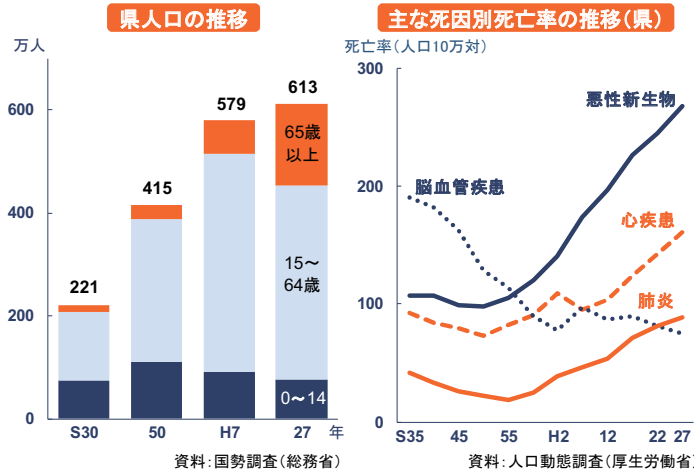
平成30年度から平成35年度まで（6年間）

*在宅医療等については、平成32年度に中間見直しを行う予定

第2章 保健医療環境の現状

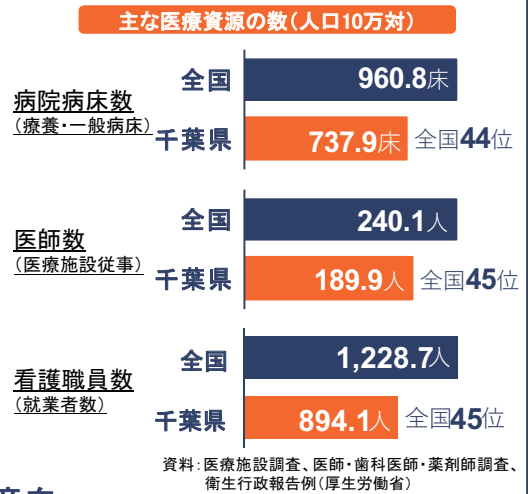
● 人口

年少・生産年齢人口は減少、老年人口は増加
がん、心疾患、肺炎による死亡率は増加傾向



● 医療資源

人口当たりの医療資源数は、相対的に少ない



● 受療動向

人口10万対受療率は相対的に低い



● 県民の意識・意向

最期を迎える場所について、県民の意向と実績にギャップがある

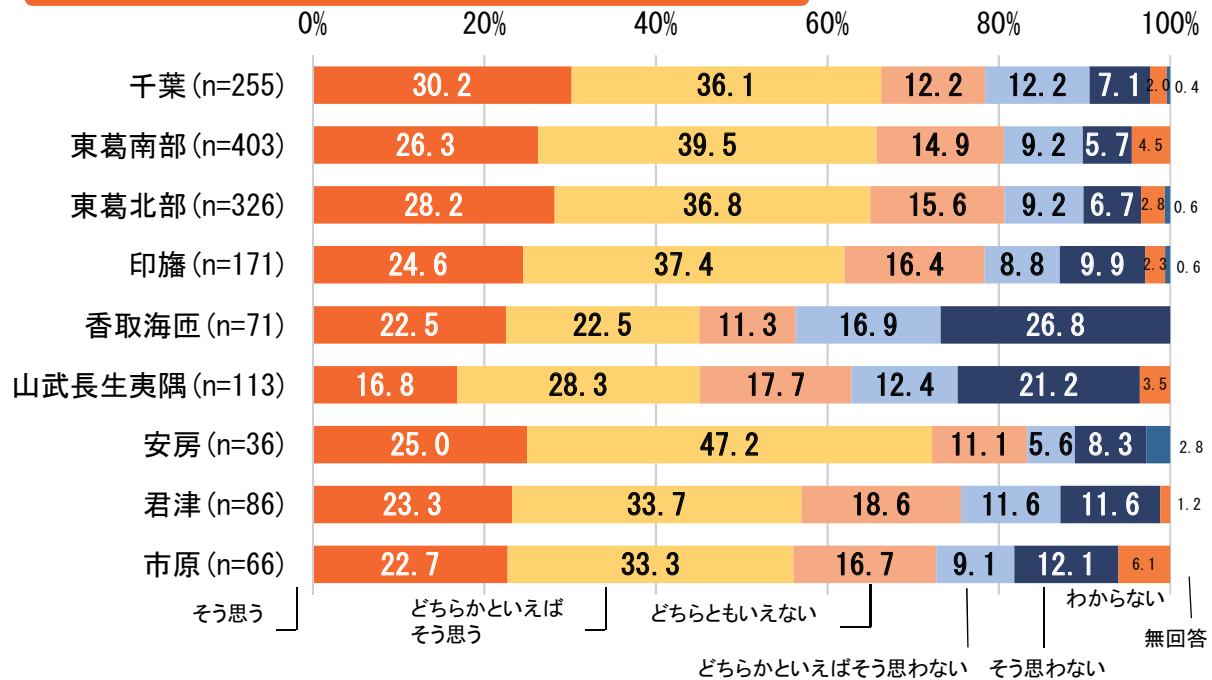
今後、県に力を入れて欲しい医療(上位5つ)

- ① 老年医療 34.8%
- ② がん医療 34.0%
- ③ 在宅医療 31.2%
- ④ 救急救命医療 29.6%
- ⑤ 地域単位の医療 24.3%

最期を迎える場所(上位3つ)

意向(県民アンケート)	実績(H28)
① わからない 33.8%	① 医療施設 77.7%
② 居住の場 27.4%	② 自宅 15.1%
③ 居住の場や施設等で療養、最期は入院 19.7%	③ 老人ホーム 5.2%

自分が住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思うか。



第3章 保健医療圏と基準病床数

保健医療圏：保健医療サービスを提供していくための地域的単位です。

基準病床数：圏域内における病床の整備の目標です。圏域内の病床の適正配備を促進し、各圏域の医療水準の向上を図るために設定します。

● 二次保健医療圏



● 基準病床数

・療養病床及び一般病床数 (床)

保健医療圏	基準病床数
千葉	8,039
東葛南部	12,136
東葛北部	10,728
印旛	4,342
香取海匝	2,284
山武長生夷隅	2,717
安房	1,694
君津	2,479
市原	2,007
千葉県計	46,426

・精神病床数
10,674床

・結核病床数
72床

・感染症病床数
60床



第4章 地域医療構想

2025年に向けて、少子高齢化の進展が見込まれる中、限られた医療・介護資源を効果的・効率的に活用し、県民が地域において安心して質の高い医療・介護サービスが受けられるよう、地域保健医療連携・地域医療構想調整会議等を活用しながら医療機関の病床機能の分化と連携を推進します。

● 2025年における必要病床数及び在宅医療等の必要量

構想区域	(床)					在宅医療等の必要量 (人/日)
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	計	
千葉	1,077	3,028	2,520	1,859	8,484	15,329
東葛南部	1,376	4,783	4,072	2,779	13,010	22,651
東葛北部	1,386	4,227	3,647	2,439	11,699	19,127
印旛	594	1,947	1,625	1,382	5,548	7,054
香取海匝	289	745	587	560	2,181	2,517
山武長生夷隅	104	887	946	994	2,931	4,919
安房	308	602	358	373	1,641	2,064
君津	232	806	810	522	2,370	2,866
市原	284	826	695	335	2,140	2,239
千葉県計	5,650	17,851	15,260	11,243	50,004	78,766

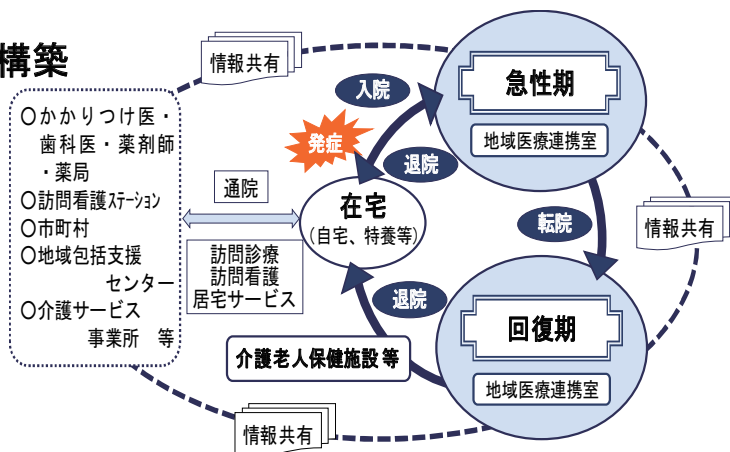
第2編 各論

第1章 質の高い保健医療提供体制の構築

● 循環型地域医療連携システムの構築

総論

- 患者を中心として、急性期から回復期までの治療を担う地域の医療機関の役割分担と連携等を推進する「循環型地域医療連携システム」を一層推進します。
- 併せて、地域医療の機能分化と連携を進めることで、地域医療構想の達成に向けて取り組んでいきます。



循環型地域医療連携システム イメージ図

各論

現状と課題

主な取組

がん	<ul style="list-style-type: none"> 予防や早期発見・早期治療が重要 医療機関のネットワーク、相談支援体制、緩和ケア提供体制等の充実が必要 治療と仕事の両立支援に関するニーズの高まり、小児がん等への支援の多様なニーズ 	<ul style="list-style-type: none"> がん予防の普及啓発 がん検診の受診率向上と精度管理 拠点病院等を中心とした医療連携 緩和ケアの推進、小児がん等の対策 相談、情報提供、患者の生活支援等
脳卒中	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣改善による発症予防が重要 発症直後の早期受診が予後に関わる 24時間の急性期医療体制確保、病期に応じたリハビリの実施、発症から在宅まで切れ目のない医療・介護の提供が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣と脳卒中の関係についての周知 特定健診・特定保健指導による予防推進 脳卒中発症時の対応に関する啓発 救急医療体制、地域リハビリ支援体制整備 多職種連携、医療・介護連携の促進
心筋梗塞等の心血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣改善による発症予防が重要 発症直後のAED使用、救急要請、早期受診など迅速な対応が予後に関わる 早期リハビリから退院後の再発予防まで多職種による一貫したリハビリが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣と心血管疾患の関係についての周知 特定健診・特定保健指導による予防推進 急性の心血管疾患発症時の対応に関する啓発 応急処置に関する知識・技術の普及 救急体制整備、多職種・医療介護連携の促進
糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣改善による発症予防が重要 健診結果に応じた受診勧奨や保健指導の実施による重症化・合併症予防が重要 多職種や多施設、保険者と医療機関等の連携した指導や自己管理への支援が重要 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣と糖尿病の関係についての周知 特定健診・特定保健指導による生活習慣病予防対策の推進 重症化予防に向けた取組の支援
精神疾患	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害者も地域の一員として安心して自分らしく暮らせる環境が必要 多様な精神疾患にも対応できる医療連携体制の構築が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援窓口の周知と機能の充実 発症から精神科受診までの時間の短縮化 早期退院や地域生活継続のための支援 多様な精神疾患等ごとに対応できる医療機関を明確にし、医療連携による支援体制を構築
認知症	<ul style="list-style-type: none"> 発症予防と早期発見・早期対応が重要 若年性認知症への対応が必要 入院時からの在宅復帰支援や、地域生活を支えるための仕組みが重要 本人やその家族の意思を尊重した看取りが重要 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症に対する正しい理解の普及・啓発とやさしいまちづくりの推進 認知症予防の推進、早期診断と適切な医療・介護連携体制の整備、多職種協働の推進 人材の養成、本人やその家族への支援 若年性認知症施策の推進

現状と課題

救急医療

- ・傷病者の搬送・受入の円滑化が重要
- ・AED使用率が低い
- ・救急搬送件数の増加
- ・救急搬送時間の長時間化
- ・症状の程度に応じた救急医療体制が必要

災害医療

- ・災害時の医療救護体制や広域医療連携マニュアルを定めておくことが必要
- ・災害時に医療活動を行う病院や被災地で救急医療等に対応できる体制が必要
- ・応急資器材の準備、平時の訓練が重要

周産期医療

- ・リスクを伴う出産が増加し、これに対応できる医療施設の確保が必要
- ・周産期の医療従事者は全国平均を下回る
- ・NICU等の医療設備は地域偏在がみられる

小児医療

- ・小児救急患者の救命率向上が必要
- ・軽症患者の救急病院への集中がみられる
- ・小児医療従事医師数が少なく地域偏在もみられる

主な取組

- メディカルコントロール体制の強化
- 応急処置に関する知識・技術の普及
- 救急車適正利用の啓発、救急医療情報の提供
- 救急医療体制の整備・機能充実

- 災害医療体制や医療救護マニュアルの整備
- 災害拠点病院、DMAT、医療救護班等の整備
- 精神科領域における災害医療体制の整備
- 診療に必要な水等の確保、防災訓練の実施

- 周産期母子医療センター、NICUの整備・支援
- 周産期医療連携体制、搬送体制の整備
- 災害時における周産期医療体制の強化
- 周産期医療従事者の人材確保と育成

- 小児救急医療啓発事業、電話相談事業の実施
- 小児救急医療体制の整備・充実
- 小児救命集中治療ネットワークの運用
- 災害時における小児医療体制の強化

● 在宅医療の推進

- ・入院から在宅医療への切れ目のない医療体制の構築が必要
- ・在宅医療に係る資源や後方支援体制が不十分
- ・市町村圏域を基本に提供体制整備が必要
- ・死亡場所に関する県民の意向と現実にはかい離がみられる

- 医療・介護の多職種連携の促進
- 在宅医療を担う人材の増加、質の向上
- 市町村の在宅医療・介護連携の取組への支援
- 在宅医療に対する医師等の負担の軽減
- 患者が望む場所で看取りができる環境づくり

● 人材の養成確保

- ・人口当たり従事者数の少ない職種がある
- ・離職防止のためワークライフバランスに配慮した就労環境づくりが重要

- ・県内でも従事者数の偏在がみられる
- ・高齢患者増加等に対応した資質向上が必要

医師

- 養成・確保対策の推進
- 偏在解消対策
- 女性医師等の定着促進・再就業支援対策

歯科医師

- 高齢者等の歯科治療のための研修会の充実
- 臨床研修の充実

薬剤師

- 研修制度の充実
- 専門・認定薬剤師の育成
- 就業の促進
- 公益活動の実施
- 薬学部学生の医療機関等における実習受入体制の整備

看護職員

- 看護師等の養成確保
- 離職防止と再就業の促進対策
- 人材確保と看護に関する普及啓発
- 職種別看護職員の資質の向上
- 継続教育の支援、研修体制の整備・充実

理学療法士・作業療法士

- 人材の確保及び資質の向上

歯科衛生士

- 人材の確保及び資質の向上
- 復職支援

栄養士（管理栄養士）

- 資質の向上

～医師の養成・確保・偏在解消に向けて～

県では医師確保に向けて様々な取組を進めています。

★地域医療に従事する医師の確保

県では、大学と連携して、地域医療に貢献しようと考えている医学生に対して修学資金を貸し付け、医師免許取得後、一定期間、医師不足地域の病院で働いていただくことで返還を免除する「医師修学資金貸付制度」を実施しており、これまで延べ287名に貸付を行いました。

すでに大学を卒業した68名の医師が県内の医療機関に就業しており、今後、順次、医師不足地域の自治体病院等に勤務する予定です。

この制度によって、平成37年度までに、約400名の医師が確保できる見込みです。

★医師のキャリア形成や能力向上を応援

県が千葉大学医学部附属病院内に開設した「千葉県医師キャリアアップ・就職支援センター」では、初期臨床研修や専門研修を受ける医師を県内外から確保するため、県内医療機関の情報発信や医師からの相談に対応しています。

また、若手医師を対象にしたスキルアップ研修や、高度なシミュレーション機器を用いた医療技術研修等を実施しており、県内から多くの医師が参加しています。



● 地域医療の機能分化と連携

- 医療機能の充実と県民の適切な受療行動の促進
- 総合診療機能の充実
- 地域医療連携の推進
- 自治体病院の連携の推進や経営改善の支援
- 県立病院が担うべき役割
- 薬局の役割
- 患者の意思を尊重した医療

人生の最終段階にどのような医療を受けたいかを日頃から考え、家族等と話し合い、共有することの重要性を啓発します。

● 各種疾病対策等の推進

- 結核対策
- 感染症対策
- 難病対策
- 小児慢性特定疾病対策
- アレルギー対策
- 臓器移植対策
- 歯科保健医療対策
- リハビリテーション対策
- 高齢化に伴い増加する疾患等対策

高齢者に多くみられるロコモティブシンドロームやフレイル（虚弱）、大腿骨近位部骨折、誤嚥性肺炎について、疾病・介護予防を中心に、医療・介護が連携した総合的な取組を進めます。

第2章 総合的な健康づくりの推進

- 急速な高齢化が進む中、元気で活発な高齢期の延伸を目指すことが重要
- 平均自立期間について市町村格差が存在
- 健康増進には生活習慣の改善が重要
- 生活習慣はライフステージや性、おかれている社会経済状況等により異なる
- 生活習慣病による死亡数は全体の約6割
- 症状の進展や合併症の予防も重要
- 個人の健康づくりへの取組だけでなく、地域社会の課題に取り組むことが必要

「健康ちば21」（健康増進計画）と整合した取組を進めます。

- 個人の生活習慣の改善とそれを支える社会環境の整備
- ライフステージに応じた心身機能の維持・向上
- 生活習慣病の発症予防と重症化予防
- 総合的ながん対策の推進
- 総合的な自殺対策の推進
- つながりを生かし、健康を守り支える環境づくり

第3章 保健・医療・福祉の連携確保

子どもやその親、高齢者、障害者に対して適切な保健医療サービスを提供するとともに、保健・医療・福祉の各分野における資源が有機的に連携することで効率的で一貫したサービスを提供できるよう連携拠点の整備を進めていきます。

母子保健 医療福祉対策

- ・安心・快適な妊娠・出産・育児のための体制の充実
- ・周産期医療の充実
- ・専門的相談体制の整備
- ・地域母子保健体制充実
- ・児童虐待の未然防止・早期発見・早期対応のためのネットワーク整備
- ・虐待を受けた子どもや虐待をした親への支援

高齢者保健 医療福祉対策

- ・介護予防事業の充実強化
- ・高齢者虐待防止対策の充実強化
- ・地域における生活を支えるための包括的な支援体制の充実強化

障害者保健 医療福祉対策

- ・地域における相談・支援体制の充実強化
- ・障害者の受診支援の取組推進
- ・医療・介護・福祉施設・事業所等との連携推進
- ・在宅重症心身障害児(者)等への支援の推進
- ・医療費負担の軽減
- ・障害者理解の促進と差別の解消・虐待の防止

連携拠点の 整備

- ・健康福祉センター(保健所)
- ・市町村保健センター
- ・衛生研究所
- ・県立保健医療大学



第4章 安全と生活を守る環境づくり

- 健康危機管理体制
- 医療安全対策等の推進
- 快適な生活環境づくり

第3編 地域編

高齢化の状況や医療需要の増加幅、医療資源の量、医療提供体制を支える人材の数などには地域差があり、地域の実情に応じた取組を進めます。

	人口		疾患別死亡率(人口10万対死者数)			推計人口(増減率)		医療需要見込み(増減率)	
	高齢化率	悪性新生物	心疾患	肺炎	総人口	うち65歳以上	入院	在宅	
千葉	25%	256人	135人	80人	1%	39%	27%	98%	
東葛南部	23%	228人	123人	66人	▲1%	28%	37%	112%	
東葛北部	26%	258人	133人	80人	▲2%	27%	44%	78%	
印旛	25%	255人	156人	93人	▲5%	33%	33%	60%	
香取海匝	32%	383人	250人	142人	▲17%	7%	▲15%	19%	
山武長生夷隅	32%	352人	271人	125人	▲12%	16%	52%	46%	
安房	39%	438人	287人	153人	▲16%	1%	▲34%	15%	
君津	28%	307人	179人	112人	▲10%	19%	30%	44%	
市原	26%	301人	164人	91人	▲7%	26%	21%	69%	
千葉県	26%	269人	155人	87人	▲4%	26%	30%	78%	
備考	H27 国勢調査	H28 人口動態統計			H25→H37増減率		H25→H37増減率 圏域内に住所を有する患者数		

～医療機関の役割分担・連携を推進します～

医療機関は、施設の希望や専門性などに応じて互いに役割を分担

医療・介護サービスが切れ目なく受けられるよう、介護サービス事業者も含めた連携が必要

地域ごとに、その状況に応じた必要な医療機能の確保が重要

- 地域の病院や診療所などの医療機関、介護事業所等の役割分担と相互連携を進めるため、地域の実情に応じた情報共有の仕組みづくりを推進
- 二次保健医療圏ごとに地域の医療機関や関係団体、市町村などで構成される「地域保健医療連携・地域医療構想調整会議」等を実施

～循環型地域医療連携システムの構築～

患者を中心として、急性期から回復期までの治療を担う地域の医療機関の役割分担と連携、更には健康づくり・介護サービス等と連動する体制の充実を目指しています。



5疾病4事業ごとの連携イメージ図と、イメージ図に対応した医療機関一覧は千葉県ホームページに掲載しています。

千葉県保健医療計画【概要版】

平成30年7月発行 千葉県健康福祉部健康福祉政策課
TEL 043-223-2609

保健医療計画の本編は、県ホームページに掲載しています。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/keikaku/kenkoufukushi/30hokeniryou.html>

保健医療計画 千葉県

和洋女子大学大学院
看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称）
設置構想についてのアンケート調査
【人材需要アンケート調査】
報告書

令和 5 年 1 月 16 日
株式会社高等教育総合研究所

目次

1. 調査の概要.....	2
2. 集計結果.....	3
3. 集計結果のポイント.....	7
4. 集計結果の分析.....	12
添付資料.....	13

1. 調査の概要

調査目的	本調査は、和洋女子大学大学院が2024（令和6）年4月に設置構想中の「看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称）」（以下、当該研究科と記す）における人材需要の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	当該研究科の修了生の採用が期待される千葉県を中心とした機関・施設の計49件を対象とした。
調査内容	<ul style="list-style-type: none">● 問1～3：回答機関・施設の基本情報（所在地、種別、看護職員数）● 問4：回答機関・施設の大学院進学への支援制度● 問5：当該研究科に対する社会的ニーズ● 問6：当該研究科の修了生に対する採用の意向● 問7：採用可能人数● 問8：当該研究科への進学の推進● 問9：回答機関・施設の学修支援● 問10：当該研究科に対する意見・要望 以上、全10問で主に選択肢式。一部記述を含む。
調査時期	2022（令和4）年11月～12月
調査方法	調査対象先の人事・採用担当者宛に依頼状、概要説明プリント、アンケート調査用紙1部、返送用封筒を送付し回答を得た。
回収件数	有効回答数 23件

2. 集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

問1 貴機関・貴施設の所在地を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	市川市	14	60.9%
2	船橋市	1	4.3%
3	習志野市	2	8.7%
4	八千代市	0	0.0%
5	鎌ヶ谷市	0	0.0%
6	浦安市	2	8.7%
7	松戸市	2	8.7%
8	柏市	0	0.0%
9	その他の千葉県内市町村	1	4.3%
10	千葉県以外	1	4.3%
合計		23	100.0%

問2 貴機関・貴施設の種別を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	病院	13	56.5%
2	訪問看護ステーション	0	0.0%
3	保健所（健康福祉センター）	1	4.3%
4	企業	0	0.0%
5	その他	9	39.1%
合計		23	100.0%

問3 貴機関・貴施設に勤務されている看護職員の人数を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	10人以下	7	30.4%
2	11～50人	2	8.7%
3	51人～100人	0	0.0%
4	101人～300人	4	17.4%
5	301人～500人	6	26.1%
6	501人以上	3	13.0%
7	無回答	1	4.3%
合計		23	100.0%

問 4 貴機関・貴施設で設けている大学院進学への支援制度について、教えてください。
(あてはまるもの全てにマークをしてください)

No	選択項目	回答数	構成比
1	費用面での支援制度	1	4.3%
2	勤務調整での支援制度	2	8.7%
3	在学中の休職制度	2	8.7%
4	制度はないが、個別に対応している	12	52.2%
5	特になし	5	21.7%
6	その他	1	4.3%

※問 4 は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比=回答数÷23 人

問 5 和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）が養成する人材は、これからの地域社会において必要であると思われますか。

No	選択項目	回答数	構成比
1	とても必要である	5	21.7%
2	必要である	16	69.6%
3	あまり必要ではない	1	4.3%
4	必要ではない	0	0.0%
5	無回答	1	4.3%
合計		23	100.0%

問 6 貴機関・貴施設において、今後、和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）が養成する人材（修了生）を採用したいと思われますか。

No	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	10	43.5%
2	採用を検討したい	5	21.7%
3	採用しない	0	0.0%
4	どちらともいえない	7	30.4%
5	無回答	1	4.3%
合計		23	100.0%

問7は、問6で「1. 採用したい」、「2. 採用を検討したい」と回答した15名が対象である。

問7 貴機関・貴施設において、和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）を修了した者のうち、採用可能であると思われる人数を教えてください。

No	選択項目	回答数	構成比
1	1人	9	60.0%
2	2人	1	6.7%
3	3人以上	0	0.0%
4	人数は未確定	5	33.3%
合計		15	100.0%

問8 貴機関・貴施設に勤務する看護職員が大学院（修士課程）に進学を希望した場合、和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）への進学をすすめますか。

No	選択項目	回答数	構成比
1	積極的に進学を推奨する	4	17.4%
2	進学を推奨するが、本人の意思に任せる	11	47.8%
3	進学を推奨しない	0	0.0%
4	わからない	6	26.1%
5	その他	0	0.0%
6	無回答	2	8.7%
合計		23	100.0%

問9 貴機関・貴施設に勤務する看護職員を大学院（修士課程）に進学させる場合、検討可能な学修支援について教えてください。（あてはまるもの全てにマークしてください）

No	選択項目	回答数	構成比
1	勤務調整により進学させる	9	39.1%
2	休職により進学させる	7	30.4%
3	奨学金を支給して進学させる	1	4.3%
4	本人の意思に任せる	13	56.5%
5	その他	4	17.4%

※問9は複数回答項目のため、回答数は延べ。各構成比＝回答数÷23人

問 10 和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）について、期待する点やご要望などがありましたらご自由にお書きください。

※以下、回答内容を掲載。順不同。

No	回答内容
1	臨床では日々多くの課題に向き合いながら医療を提供しています。 柔軟性があり高い視点をもって働くことができる優れた人材を育成し送り出して下さることを期待しております。
2	看護管理者育成に力を入れており、この進学が管理的視点を養う一助となることを期待する。
3	より専門的な学びを深めた看護師が地域の病院で活躍することで地域の看護の質向上を期待します。
4	地域の中で役立つ研究をされ、実践できる人材はもっと必要と思います。
5	現地で採用する方式ではない為、回答できない問いが多い点、承知いただけますと幸いです。

3. 集計結果のポイント

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

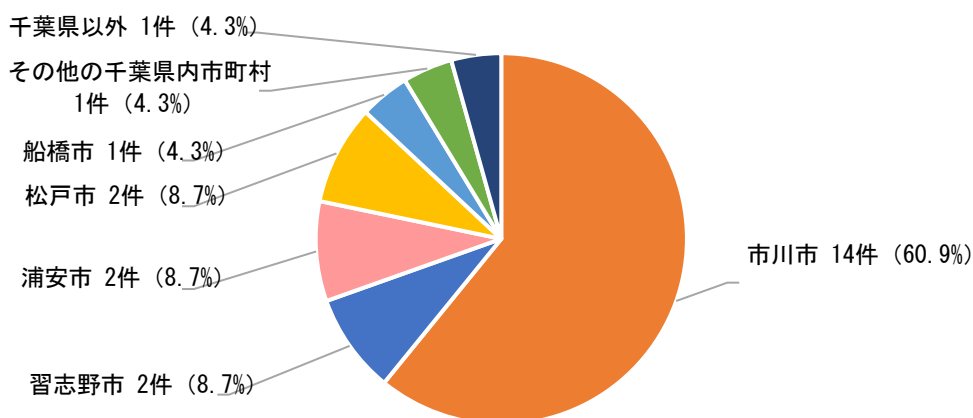
● 千葉縣市川市を所在地とする機関・施設が、全体の約6割となった。

和洋女子大学大学院が2024（令和6）年4月に設置構想中の「看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称）」に係る人材需要アンケート調査において、有効回答23件の集計を行った。

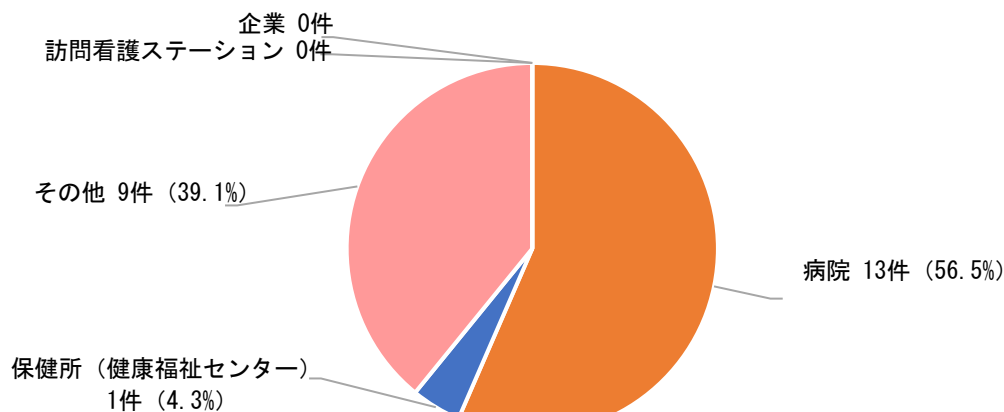
その結果、機関・施設の所在地の内訳は、市川市が14件（60.9%）、習志野市、浦安市、松戸市が2件（8.7%）、船橋市、その他の千葉市内市町村、千葉県以外が1件（4.3%）となり、種別については、病院が13件（56.5%）、保健所（健康福祉センター）が1件（4.3%）、その他が9件（39.1%）であった。

また、勤務されている看護職員の人数については、回答の多い順に、10人以下が7件（30.4%）、301人～500人が6件（26.1%）、101人～300人が4件（17.4%）、501人以上が3件（13.0%）、11人～50人が2件（8.7%）であった。

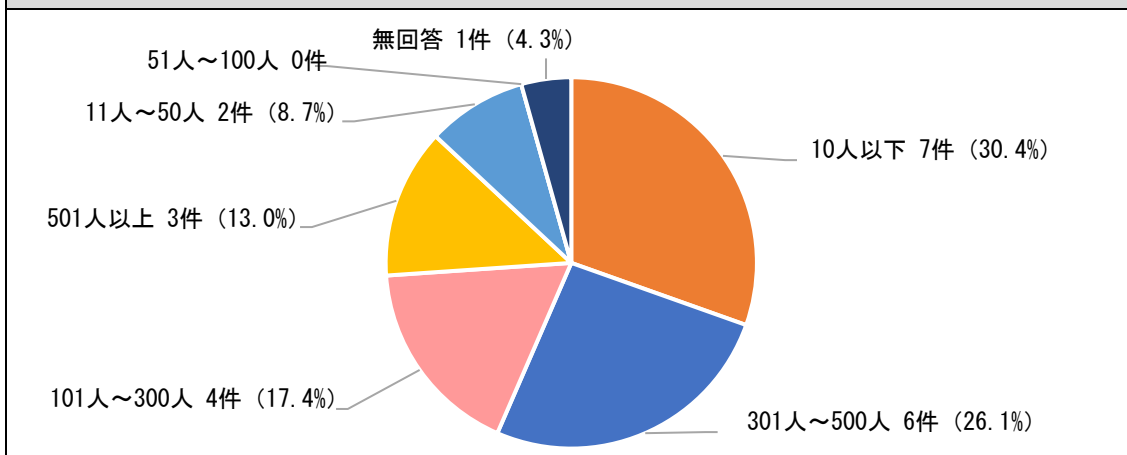
【グラフ】回答機関・施設の所在地について<問1の結果より>



【グラフ】回答機関・施設の種別について<問2の結果より>



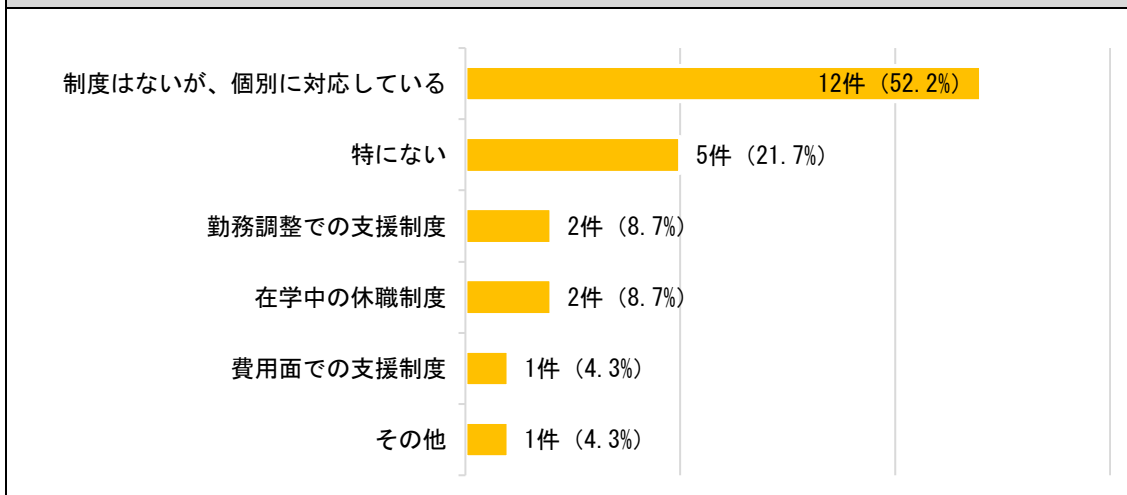
【グラフ】 回答機関・施設の看護職員数について<問3の結果より>



● 制度はないが、個別に対応しているが、全体の約5割であった。

機関・施設の大学院進学への支援制度については、制度はないが、個別に対応しているが12件(52.2%)と最も多く、次いで特にないが5件(21.7%)、勤務調整での支援制度、在学中の休職制度が2件(8.7%)、費用面での支援制度、その他が1件(4.3%)の順となった。

【グラフ】 回答機関・施設の大学院進学への支援制度について<問4の結果より>

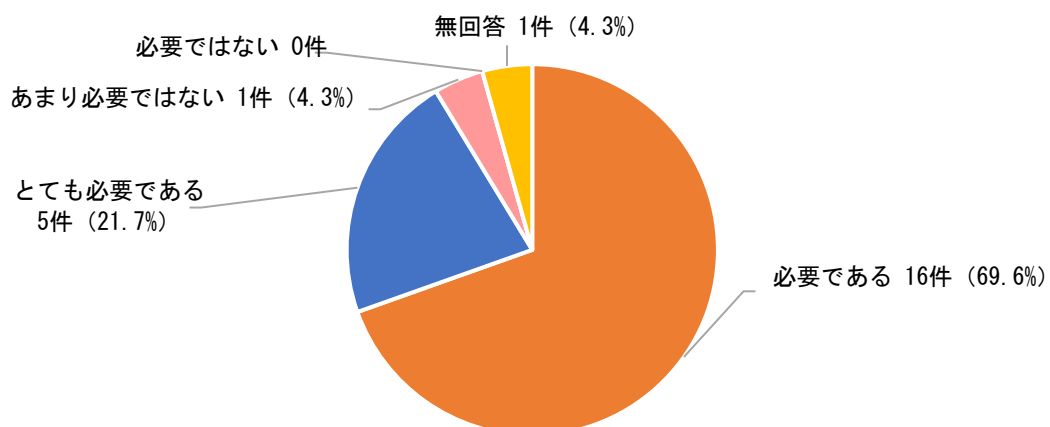


● とても必要である、必要であるとの回答は、合計で全体の 9 割を超える結果となった。

当該研究科に対する社会的ニーズについての質問では、必要であるが 16 件 (69.6%) と最も多く、次いで、とても必要であるが 5 件 (21.7%)、あまり必要ではないが 1 件 (4.3%)、必要ではないが 0 件であった。

とても必要である、必要であるとの回答は、合計で 21 件となり全体の 9 割を超える結果となった。

【グラフ】当該研究科に対する社会的ニーズについて<問 5 の結果より>

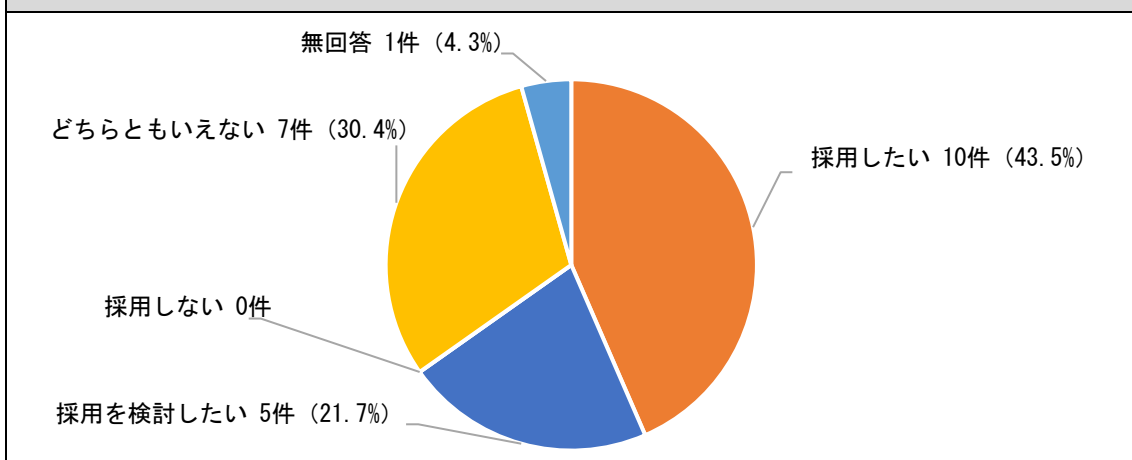


● 採用可能人数は、予定している入学定員 6 名を十分に上回る 16 名であった。

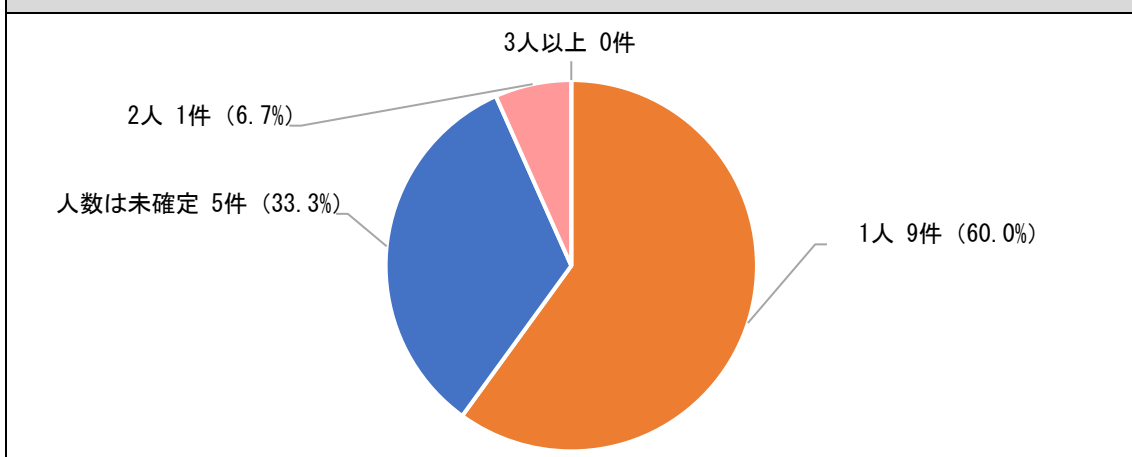
当該研究科の修了生に対する採用の意向については、採用したいが 10 件 (43.5%)、採用を検討したいが 5 件 (21.7%) で、合計で 15 件の 6 割を超える機関・施設が採用意欲を示す結果となった。また、この 15 件の機関・施設から示された具体的な採用可能人数は、1 人が 9 件 (60.0%) と最も多く、次いで人数は未確定が 5 件 (33.3%)、2 人が 1 件 (6.7%) の順となっている。

この採用可能人数の合計は、16 人 (人数は未確定は 1 人として集計) となり、当該研究科における入学定員の 6 名を十分に上回る回答を得た結果となった。

【グラフ】 当該研究科の修了生に対する採用の意向について<問 6 の結果より>



【グラフ】 採用可能人数について<問 7 の結果より>

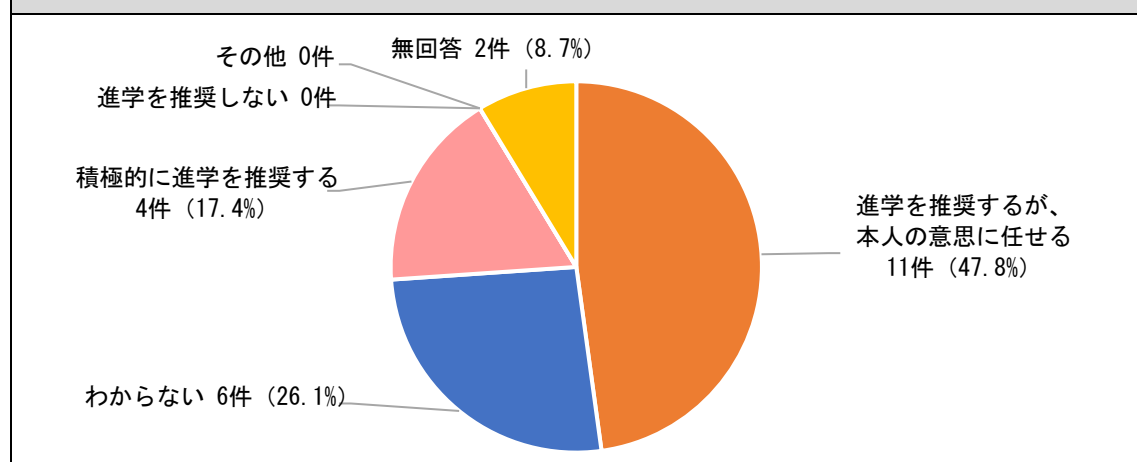


● 進学を推奨するが、本人の意思に任せるが、全体の約 5 割の回答であった。

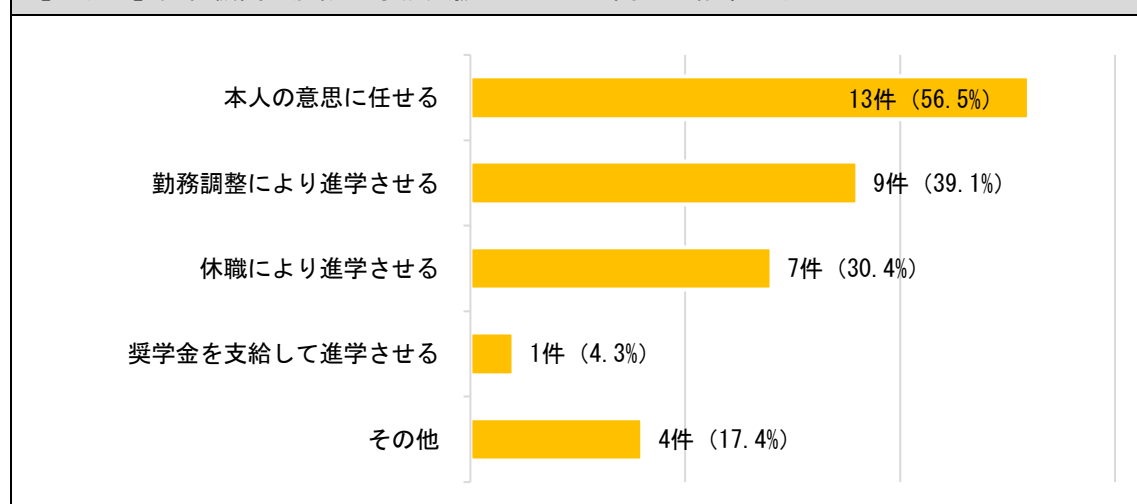
当該研究科への進学の推進については、進学を推奨するが、本人の意思に任せるが 11 件 (47.8%)、わからないが 6 件 (26.1%)、積極的に進学を推奨するが 4 件 (17.4%) であり、進学を推奨しないとの回答は 0 件であった。

また、当該研究科へ進学した場合の回答機関・施設の学修支援については、本人の意思に任せるが 13 件 (56.5%) と最も多く、次いで勤務調整により進学させるが 9 件 (39.1%)、休職により進学させるが 7 件 (30.4%)、奨学金を支給して進学させるが 1 件 (4.3%)、その他が 4 件 (17.4%) となった。

【グラフ】当該研究科への進学の推進について<問 8 の結果より>



【グラフ】回答機関・施設の学修支援について<問 9 の結果より>

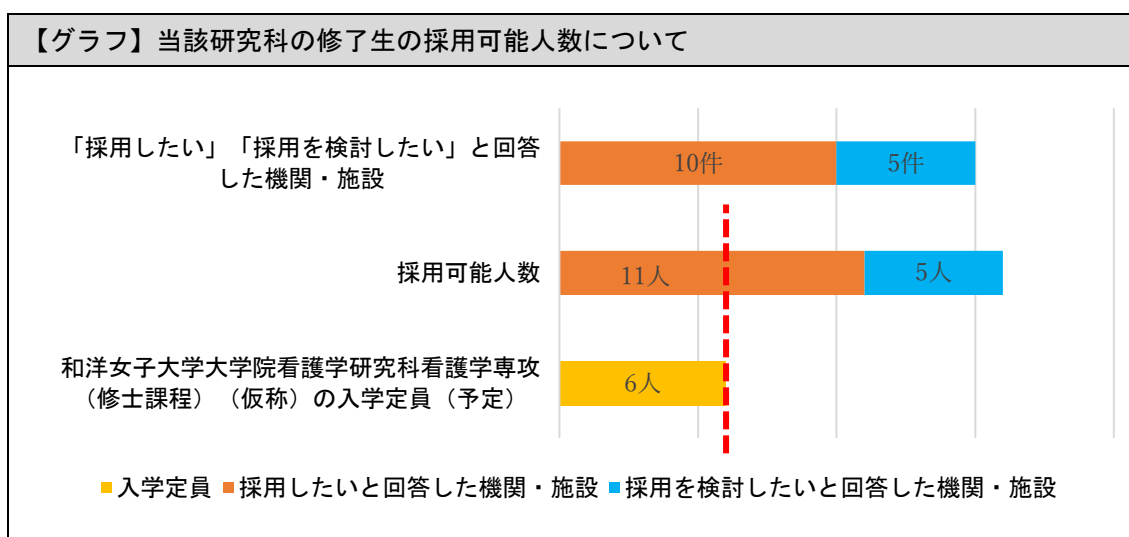


4. 集計結果の分析

当該研究科の修了生を「採用したい」「採用を検討したい」と回答した機関・施設 15 件（問 6）の採用可能人数（問 7）の結果は、以下の通りである。

No	選択項目	採用したい		採用を検討したい		合計	
		回答数	採用可能人数	回答数	採用可能人数	回答数	採用可能人数
1	1人	7	7人	2	2人	9	9人
2	2人	1	2人	0	0人	1	2人
3	3人以上	0	0人	0	0人	0	0人
4	人数は未確定	2	2人	3	3人	5	5人
合計		10	11人	5	5人	15	16人

※人数は未確定は1人として集計



以上の結果より、和洋女子大学大学院が2024（令和6）年4月に設置構想中の「看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称）」の人材需要の見通しは、当該研究科の修了生を「採用したい」または「採用を検討したい」と回答した15件の機関・施設の採用可能人数は16人であった。また、そのうちの「採用したい」と回答した10件の機関・施設による採用可能人数は11人という採用の意向・人数を示す回答が得られた。

これは、予定する入学定員の6名を十分に上回る回答結果であるため、当該研究科の人材需要の見通しは問題なしと判断できる。

添付資料

和洋女子大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称）

- ・ 概要説明プリント
- ・ 人材需要アンケート調査票

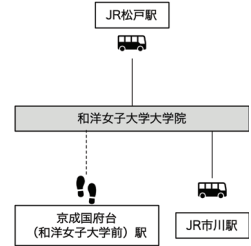
和洋女子大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 (仮称)

2024年4月開設予定
設置構想中

名称	看護学研究科 看護学専攻 修士課程 (仮称)
開設時期	令和6 (2024) 年4月
入学定員	6名 ※男女共学
取得学位	修士 (看護学)
修業年限	2年
設置場所	千葉県市川市 (国府台キャンパス内)

<所在地>千葉県市川市国府台2-3-1

- 京成国府台駅下車→徒歩9分
- JR市川駅下車→バス8分
「市川駅」→松戸営業所行「真間山下」下車
- JR松戸駅→バス20分
「松戸駅」→市川駅行「和洋女子大学前」下車



養成する人材像

看護実践の具体的な諸課題に焦点をあて、その問題解決能力の育成をし、実践の場において、次の能力を有する人材を養成します。

- ①看護職の高度かつ幅広い専門性を備え、自らが関わる組織あるいはコミュニティを統括することができる人材
- ②時代のニーズに応えるため広い視野を磨き、乳幼児期、妊娠・出生から老年期までのライフコースに寄り添ってセルフマネジメントの支援ができる人材
- ③地域包括ケアシステムおよび産業看護・公衆衛生において、心身両面からの健康維持と向上を支援し、専門職間連携に関する視点を看護学に応用した研究課題に取り組める人材
- ④看護領域でリーダーとして活躍するため、自身の心身の健康を自己管理できる人材
- ⑤臨床において、組織の将来を見据え創造的に提言できる高いマネジメント能力および倫理的実践能力を有する人材

学問領域

大学院での研究を進めるにあたって、基盤となる「共通科目」を学修したうえで、専攻する専門領域を学修します。カリキュラムでは、「基盤看護学領域」と「広域看護学領域」の2つの領域に分けられ、領域ごとに特論 (講義) から演習、特別研究と体系的な学びを展開します。

30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査および最終試験に合格することで、修士 (看護学) の学位が授与されます。

和洋女子大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (仮称) では、以下の5つの能力が身につきます。

- | | | | | |
|--|--|---|---|--|
| <p>01</p> <p>看護実践上の課題を見出し、研究を計画・実施し、課題解決のための方法を探求する能力</p> | <p>02</p> <p>専攻する分野の看護における課題を、知識と経験から得た根拠に基づき、分析し解決する能力</p> | <p>03</p> <p>高い倫理観をもち、複雑な倫理的課題に対応できる能力</p> | <p>04</p> <p>ケアの対象者および多職種を持つ多様な価値観や背景を理解し、連携・協働を推進する能力</p> | <p>05</p> <p>看護の質の改善に向けて取り組み、看護学および地域社会の保健・医療・福祉の発展に寄与できる能力</p> |
|--|--|---|---|--|

修士課程

看護学研究科	共通科目	基盤看護学領域	特別研究	修士論文	予定する支援制度 ・平日夜間・土曜日開講 ・長期履修制度 (※) ※長期履修制度とは職業を有している等の事情により、最長4年間で計画的に教育課程を履修し、修了する制度
	<ul style="list-style-type: none"> ● 看護研究 ● 看護倫理 ● 疫学保健統計学 ● 地域包括ケア論 ● 公衆衛生学 ● 社会福祉論 ● 看護教育論 ● チーム医療論 ● 臨床心理学 など 	<ul style="list-style-type: none"> ● 看護管理 ● 成人看護学 ● 老年看護学 ● 小児看護学 			
		広域看護学領域			
		<ul style="list-style-type: none"> ● 健康医療政策学 ● 産業看護学 ● 地域看護学 ● 精神看護学 ● ウィメンズヘルス看護学 			

種別	大学院名	所在地	募集定員	入学金*	授業料	施設設備費	小計	実験・実習費	その他*	合計
私立	和洋女子大学大学院	市川市	6名	175,000円	520,000円	300,000円	995,000円	-	-	995,000円
私立	東京医療保健大学 千葉大学院	船橋市	8名	500,000円	1,000,000円	-	1,500,000円	-	84,500円	1,584,500円
私立	聖徳大学大学院	松戸市	8名	440,000円	650,000円	300,000円	1,390,000円	-	17,930円	1,407,930円
私立	淑徳大学大学院	千葉市	5名	200,000円	800,000円	100,000円	1,100,000円	-	59,950円	1,159,950円
国立	千葉大学大学院	千葉市	40名	282,000円	642,960円	-	924,960円	-	-	924,960円
私立	順天堂大学大学院	浦安市	25名	200,000円	550,000円	-	750,000円	50,000円	-	800,000円

令和4年度の各大学院募集要項より掲載しています。(注※) 入学金: 他大学を卒業した場合の入学金を掲載 その他: 保険や同窓会費などを含む

※和洋女子大学大学院 看護学研究科 看護学専攻 (仮称) は設置構想中であり、今後内容は変更になる可能性があります。



和洋女子大学大学院 看護学研究科 看護学専攻（修士課程）（仮称） 設置構想についてのアンケート調査 （対象：施設管理者の皆様）

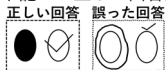
和洋女子大学大学院は、2024（令和6）年4月に看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）の新設を構想しております。本学では、この調査を通してご意見などをお聞きし、構想内容に反映したいと考えております。なお、皆様から得られた情報は、本研究科の設置構想に関わる統計資料及び文部科学省への提出書類の一部としてのみ活用し、施設・個人が特定されることはございません。つきましては、別紙の概要をご覧ください。アンケートへのご協力をよろしく申し上げます。

※このアンケート調査は和洋女子大学大学院設置準備室から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※概要及びアンケートに記載されている新研究科の内容については予定であり、変更される可能性があります。

【アンケート記入にあたっての注意事項】

・記入は必ずシャープペンシル、又は黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。

・下記の「正しい回答」のように丁寧に塗りつぶしてください。「誤った回答」の場合、正確に読み込めず判断できない場合があります。



問1 貴機関・貴施設の所在地を教えてください。

- 市川市 船橋市 習志野市 八千代市 鎌ヶ谷市 浦安市 松戸市 柏市 その他の千葉県内市町村
 千葉県以外

問2 貴機関・貴施設の種別を教えてください。

- 病院 訪問看護ステーション 保健所（健康福祉センター） 企業 その他

問3 貴機関・貴施設に勤務されている看護職員の人数を教えてください。

- 10人以下 11～50人 51人～100人 101人～300人 301人～500人
 501人以上

問4 貴機関・貴施設で設けている大学院進学への支援制度について、教えてください。

（あてはまるもの全てにマークをしてください）

- 費用面での支援制度 勤務調整での支援制度 在学中の休職制度 制度はないが、個別に対応している
 特になし その他

問5 和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）が養成する人材は、これからの地域社会において必要であると思われますか。

- とても必要である 必要である あまり必要ではない 必要ではない

問6 貴機関・貴施設において、今後、和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）が養成する人材（修生）を採用したいと思われますか。

- 採用したい →問7へお進みください 採用を検討したい →問7へお進みください
 採用しない →問8へお進みください どちらともいえない →問8へお進みください





以下の問7は、問6で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した方がお答えください。

問7 貴機関・貴施設において、和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）を修了した者のうち、採用可能であると思われる人数を教えてください。

- 1人 2人 3人以上 人数は未確定

問8 貴機関・貴施設に勤務する看護職員が大学院（修士課程）に進学を希望した場合、和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）への進学をすすめますか。

- 積極的に進学を推奨する 進学を推奨するが、本人の意思に任せる
 進学を推奨しない わからない
 その他

問9 貴機関・貴施設に勤務する看護職員を大学院（修士課程）に進学させる場合、検討可能な学修支援について教えてください。（あてはまるもの全てにマークしてください）

- 勤務調整により進学させる 休職により進学させる
 奨学金を支給して進学させる 本人の意思に任せる
 その他

問10 和洋女子大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）（仮称）について、期待する点やご要望などがありましたらご自由にお書きください。

質問は以上となります。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

